

徳之島井之川方言の語彙

中本, 正智

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

5

(開始ページ / Start Page)

7

(終了ページ / End Page)

67

(発行年 / Year)

1979-10-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012747>

徳之島井之川方言の語彙

中本正智

語彙その1. 名詞語彙

(1) 身体関係の語彙

体の部分に関する語彙

頭

ʔukkan (頭)

ʔukkan ʔitʃa:n (頭が痛い)

ʔukkan jami (頭痛)

ʔukkan juta:n (頭が良い)

ʔukkan ʔutsi (頭をたたく)

karadzï sarki (髪を梳く)。

sarkiは「さばく(捌)」の連用形であるが、終止的に用いられている。沖縄では *sabatʃun* という。

karadzï kiri (髪を切る, 刈るの意)

tʃʉŋkosï (人の頭蓋骨)

matsïdzi (脳天)。「真頂」に対応する形。

su:ruki (ひよめき)。沖縄では *ʃu:rutʃi* という。ハ行音がサ行音化したもの。

karadzï (頭髪)。この語は「かしら(頭)」に対応する語で、**kafira* → *karafi* → *karadzi* → *karadzï* のように、音韻転倒によって変化した語である。意味も「頭」から「髪」を表わすように変化した。

karadzïnu nugïrun (髪が抜ける)

ʃiragï (白髪)

ʃiragïnu mi:tun (白髪が生えている)

kadzïmi (後頭部)

jundura karadzï (後頭部にのびるとんがった毛)

tsikjuru karadzï (ちぢれ毛)

matsïdzi (つむじ)。「真頂」と同じ。

tʃatsï matsïdzi (二つ巻き)

çidari matsïdzi (左巻き)

karadzï kiri (髪を刈る)

ʔukkan hagï (禿頭)

ʃiraʃë (しらくも)

ʔikki (ふけ)。魚の「鱗」も同じ。

dzi: ʔamba (脳味噌)。dzi:は「髄」, ʔambaは「油」である。

ʔusugi (頭髪の薄い者)

hagïruri (禿げる)

顔

tsʔira (顔)

sirapkaō (知らぬ顔)

kata tsʔira (頬)。「片顔」ということ。

ʔutugë (顎)

mintʃabu (頬骨)

sɨgari mintʃabu (左の頬骨)

migiri mintʃabu (右の頬骨)

※「額」は思い出せない。

mimaju (眉)「眉毛」も同じ。

mimajuʔanna (眉間)

siwa (しわ)。額や顔にあるしわ。

jekubo (えくぼ)。共通語の移入。

kumikan (こめかみ)

mimbukuru (おたふく)。「耳ふくれ」か。

ho:kaburi (頬かむり)

目

mi: (目)

madzigi (まつげ)

madzigi:nu naga:han (まつげが長い)

mi:tsuki (目つき)

mi:tsukinu ʔotoroha (目つきがこわい)

mi:nu daro:han (目がだるい)。

眠気の時の目の様子をいう。

mi:nu ʔagumaha (目が疲れる)

mi:da:ni (眼球)

mi:da(:)ninu ʔë:ha (眼が大きい)

mi:da(:)ninu kʔwa:ha (眼が小さい)

ʔu:mi (大きい目)

kʔwa:mi (小さい目)

turimi (片目は大きく片目が小さい不揃いの目)

ssa:gari (目をつむる)

mi: ssa:gari (目をつむる)

wagga mi: ssa:gari (私が目をつむる)

mi:jami (眼病)

midani (瞳) mi:da:ni ともいう。眼球と同語をこたえた。

kuruminaku (黒目)

siruminaku (自目)

ʔa:mi (赤目)。充血した目。

mi:nu ʔa:han (目が赤い)

miŋko (まぶた)。「目の皮」という造語。

sa:miŋko: (下のまぶた)

※「目の縁」は無回答。

mi:gasā (目頭)

ʔi:tsi miŋko: (一重まぶた)。「一つ目の皮」という表現。

ʔa:tsi miŋko: (二重まぶた)。「二つ目の皮」。

ʔatsi miŋko: (厚いまぶた)

tarimi (たれ目)

mi:hagi (ただれ目)

katami (片目)

juma:ku (鳥目)

tsikjami (近眼)

mi:mudufi (老眼)。最近は ro:gan という。

na:mi (やぶにらみ)

ʔimbë (ものもらい)

ʔimbënu ʔidgiti (ものもらいが出た)

mikkundgi (盲)。「目くずれ」という造語。「くずれ」は生長などがとまり、のびなやむことをいう。

harimikkwan (あきめくら)

- toraho:mu (トラホーム) している)
- nada (涙) hanadari (鼻だれ)
- nada jassa (涙もろい)。「涙易
しさ」という造語。 hanadzi (鼻血)
- migkufu (目やに) ?a:ɓana: (赤鼻)
- migkufu turadi (目やにを取ろう) hanakusu (鼻糞)
- mi?utsi (まばたき) kusa:ha (くさい。悪いにおいに対して)
- mi?utsi fun (まばたきをする) kabaha (良いにおいがする)
- mi: sikjarowa (まぶしい) nuki (いびき)
- ko:tinmigurowa (めまい)。 nuki si (いびきをかく)
- tatsigurami 急に立ってめまいがすること。 ?iki (息)
- midamari (不眠症) ?iki tsikjun (息をする)
- mikkuggi (めかくし)
- mintsiri (目に入ったゴミ)
- mintsirinu ?ittsi (目にゴミが入
った)
- njan ɓuri (見て見ぬふり)
- mi: fikjari (目をむく。叱る意)
- 耳
- min ((耳)
- min kudgiri (耳をほじる)
- minnari fun (耳鳴りがする)
- min jami (耳が痛い)
- minnu tu:an (耳が遠い)
- minnumi: (耳の穴)
- mintari (耳たぶ)
- minnukufu (耳の垢, 耳の糞)
- mindɓani (耳だれ)
- migkundɓa (つんぼ)
- tubimin (早耳, 良く聞く耳)
- 鼻
- hana (鼻)
- hananu ta:ha: (鼻が高い)
- takabana (高鼻)
- hana sire (低鼻)
- hana k²undɓiti (鼻がつまっている)
- hana siri (鼻をひる)。hana
sittfori (鼻をひっている)
- hanaɓkusu turi (鼻のくそを取る)
- hanamminu ɓe:ha (鼻の穴が大きい)
- hananu saki (鼻の先)
- hanammi (鼻の穴)
- hanammi sigi (鼻の穴の毛, 鼻毛)
- hanasiru (鼻水)。hanasiru siburi
(鼻を取れ)
- hanasiru tari (鼻水をたら
- 口
- kutsi (口)
- ?wa:dziba (上唇)
- sa:dziba (下唇)
- ※「総称」なし。siba は「舌」の意
に変化している。
- figi (髯)
- ?utugē figi (顎)
- hana figi (口髯)
- ɓutsikē (どもり)

ju:si (唾)。古語の「おふし」に対応する形。

kutsi k²ui (口をとじる)

kutsi tugarasi (口をとがらす)

kutsi hagi (口の側がはげる)

dubukasi (ほらふき)

?i:ɸukafuntʃu (よくしゃべる人)

sibase (兔唇)

tsidʒu (唾)

kasiguri (痰)

siba (舌)

siba k²wekkiri (舌をかむ)

siba nugidası (舌を出す)

?adzi (味)

nambi (なめる)。終止形には nambjun, nambjuri もある。

ha: (歯)

ha: jami (歯がいたい)

ha: kē:ri (歯がかけている)

mē:ba: (前歯)

ɸuba (奥歯)

ki:ba (犬歯)

ha?utʃagi (出っ歯)

?adiba (歯並みからはずれて生えた歯)

musiba (虫歯)

ha: ?uiri (歯をうえる)

?iriba (入歯)

hagifin (歯ざしり)

hapkufu (歯くそ)

ka:fiŋgi (噛みこなす)

kadziri (かじる)

kuitʃirasi (食い散らす)

nabiri (なめる)。猫などが舌を出してなめる。

simbi (なめる)。飴玉などをなめる。

k²watti (くわえる)。k²waruri ともいう。

haki (吐く)。hakun, hakuri ともいう。

hasisi (歯茎)

kui (声)

?u:gui ?idʒatsi (大声を出している)

kui. kikitʃaha (声を聞きたい)

?ju:figui (小声)

hanakomun (鼻声)

kutsibui (指笛)

karijubi (口笛)

kui kariti (声が枯れる)

kuinu neggo nati (声がなくなって)

misegui (二才声)

gi:tsi (しゃっくり)

?akubi (あくび)

tʃu:kuisse (ただの咳払い)

?iki ŋgi (風邪のときの咳)

tsi:haki (げっぷ)

?ufu (悪口)

?ufu ?juri (悪口をいう)

顎

?utugē (顎)。「顎先」のこともいう。

首

k²ubi (首)

nagak²ubi (長首)

kamek²ubi (短い首)

kubisi'dzi (首筋)

※「うなじ」は無回答。

jundurakaradzi (とんがった毛)

nudi (喉)

nudinu ko:kiti (喉がかわいている)

kubi kate (首が傾いている)
 kubi katettju (首が傾いている人)
 kubi k'uggi (首つり)
 kadzimmi (ぼんのくぼ)
 gara (喉仏)
 nubitsinogi (喉彦)
 kubi (襟)

肩

kata (肩)
 katanu ko:ti (肩がこっている)
 kembiki (けんびき)。共通語の移入。
 mifigebuni (かいがら骨)

手

tī: (手)
 juggwidī (汚れている手)
 ?udi (腕)。下膊の意にもなる。
 kainanniguri (上膊)
 tindja (手平)
 tīḡkubi (手首)
 tsige (関節)。手首や肘の関節の部分を表わす。
 φīdgi (肘)
 tītsikun (こぶし)
 tītsikun nigiri (こぶしをにぎる)
 tī: tsīgjo:sa (手をつなぐ, 手をひく)
 tī: sīmbi (手をしゃぶる)
 tī: rubasī (手をのばす)
 tī: nufi (手をのせる)
 tī: mumi (手をもむ)
 tī:ssa (手足)
 sīgjari (左)。sīgjarintī (左手)
 sīgjari masari (左まさり)
 nigiri (右)。nigirintī (右手)

katadī (片手)
 ro:ti (両手)
 tī: kirja (手がきれてなくなった人)
 tīsaguri (手さぐり)
 tīndja (手首から先の全体)
 sīmmamī (手に出来るたこ)
 tī:nu sīwa (指紋)
 tīḡko (手の甲)
 tīnwata: (手の平)
 tī:nu wariri (手のひびわれ)
 sīninu wariri (足のひびわれ)
 tīḡkabu (げんこつ)
 tīḡkabu kambasī (げんこつく
 わせる)
 mīḡgi (つかむ)。鳥や魚を「つかまえる」にもいう。
 tī: saniri (手を後へひねる)。「た
 おる」などを「しぼる」のは sīburi という。
 ?udi ?usi (腕相撲)。「腕押し」と
 いう表現。
 tī:kumi (腕組み)
 tsikjara (腕力, 力)
 tī: sīgi (腕の毛)
 ?ībī nubasī (指をのばす)
 ?ībī magiri (指をまげる)
 ?ībīsakī (指先)。?ībinusura ともいう。
 surabī (指先に出来る小さいできもの)
 φu: ?ībī (親指)
 tījusasī ?ībī (人差指)
 na ?ībī (中指)。* naka jubi → nakaibi
 → naha ?ībī → na: ?ībī → na ?ībī のように変
 化したもの。
 kusuri ?ībī (薬指)
 k'wa ?ībī (小指)。「子指」に対応する形。
 ?ībimata (指と指の間)

ʔi:binu tʃige (指の節)。tsige (節)

は tʃige と発音することもある。

ʔibisafi (指さし)。

ʔibinu niguri (指の根元)

※「指紋」は無回答。

tsimi (爪)

ʔibinu tsimini ʔitʃan (指の爪がいたい)

tsimi nugirasi (爪を抜かす)

namadzimi hagafi (生爪をはがす)

surabu (爪が化膿しているもの)

tsimigkusu (爪の垢)

tsigkiri (つねる)

hana sa:gi (鼻をつまむ)

min ʃukki (耳をひっぱる)

tsimi kʔiri (爪を切る)

ʔi:bisaki (指先)

sininu ʔi:bi (爪先)。「脛の指」という表現。

胸

waki (脇)

wakiga (腋臭)

waki ʃigi (脇毛)。「脇髯」という表現。

ni:gutsi (胸)。「胸口」に対応。

se:buni (肋骨)

ni:gutsinu ʃigi (胸毛)

tsi: (乳)。tsi: kaması (乳を飲ませ)

gudzı (脇の穴)

wakibara (脇腹)

gudzikudziri (くすぐる)

hagugë (くすぐったい)。hagugëhan という。

midziʔutsi (みぞおち)

wata (腹)

wata ʔitʃa: (腹がいたい)

watajami (腹痛)

sa:bara (下腹)

watabuta (太鼓腹)

ɸufu (臍)

ɸufu tsigi (出生の時、臍を切ること。糸で臍をくくる)

ɸufunu hantiri (臍が切れる。7日ほどして臍が自然とおちる)

ʔu:bufu (出臍、大臍ということ)

gamaku (腰)

kusi (背中)。「腰」に対応する語であるが意味は背中全体を表わすように変化している。

kusi magari (腰がまがる)

nagambuni (背骨)

semufi (せむし)。腰のまがった人一般に言う。

maritamba (尻)

maribuni (臀部の骨)

tumbuni (尾骶骨)

mari (肛門)

ho:ma (陰門)。新しく si: が入って来た。

kugi (陰門の毛)

ɸuguri (睾丸)

sau (男根)。「竿」は sa'o という。

ho:ma ʃuri (性交する)。奄美大島では si:kkwa siro: という。

tʃikinumun (月経)

harami (妊娠する)。haraduri (妊娠している)。kaorowa (お目出度である)

harantari (つわり)。harantari sun (つわりする)

内臓

mami (心臓)

ɸuka (肺臓)

kimu (肝臓)

※「胆のう」は無回答。

kukuru (心)

kimunu kjurahan (心が良い)

wata (はらわた)

?i (胃)

ko:ri (胃液をあげること)

ko:ri si: (にが汁をあげること)

wata (腸)

sakuriwata (小腸)

fu:wata (大腸)

harakudasi (くだす)

mida (蛔虫)

midanu taritun (蛔虫がたれている)

?innja (糞)

?innja mari (糞をする)

sibari (小便)

sibari si (小便をする)

marigo (おしめ)

marigo ke:ri (おしめをかえる)

phi: (屁)

phi: siri (屁をひる)

tsitsi (乳)

tsi:qkutsi (乳首)

jo:ha (ひもじい)

watanu siri (腹がへる)

kamikawa (食べすぎ)

wata hatsigo: (腹八分)

脚

sini (脚全体)

mata (股)

momot²abura (腿)

guki (膝小僧)

magari (膝全体)

matagui (またぐ)

karajuju (むこう脛)

sininuki: (脛毛)

tsitu (腓)

gabu (くるぶし)

?utfigabu (内側のくるぶし)

sotogabu (外側のくるぶし)

?adu (踵)

sambja (足の平ったいところ全体, 足の甲も含む)

siniwata (足の裏, 土ふまずも含まれる)

sininusaki (爪先)。sinisakiともいう。

?ikidzige:rafi (脱臼する)

sini ?ikidzige:rafi (脚をちがえる)

ti: ?ikidzige:rafi (手をちがえる)

sini k²undzige:rafi (足をくじく)

※「つまづく」は無回答。

ne:gi (びっこ)

sini ne:gi (びっこをひく)

sinigk²ubi (足首)

sajkata (足跡)

体の全体に関する語彙

?aki (垢)。?akaともいう。

?aki ?utusii (垢をおとす)

?inotsi (命)

ki: (気)

ta:gi (短気)

?ambë (気分)

?ambë wassa (気分が悪い)

?inotsi kiriri (命が切れる。死ぬ意)

mo:ri ji (なくなる)

kao?irunu wassa (顔色が悪い)

?irunu siruwa (色が白い)

karada (体)	φukkwiri (腫れる)
karadanu tsu:wa (体が強い)	tsiranu φukkwiri (面が腫れる)
karadanu dukuwa (体が丈夫だ)	sija ?ittfan (ばいきんが入った)
du: (体)	?umi (膿)
du: garuwa (体が軽い)	?uminu ?je:ri (膿が出る)
na:du (空洞, 体に何一つ持っていないこと)	nibutu (腫物, おでき)
tsikjara (力)	nibutunu ?umi (できものがうむ)
tsikjara kurabi (力くらべ)	nibutunu no:tan (できものが治った)
?afi (汗)	binduku (梅毒)
?afifi bitobito (汗でじとじとしている)	kidzi (傷)
?afibu (あせも)	kirikidzi (切傷)
firumi (あぶらみ)	?utsikidzi (打撲傷)
?a:niku (赤肉)	kiga (怪我する)
hada: (肌)	du: siri (体をさする)
nikun (にきび)	du: nadiri (体をなでる)
ho:kufu (そばかす)	binta (傷あと, 傷の治ったあと)
samitari (搔いて皮が白くなっている)	ki: (毛)
?ikkitari (皮が鱗のようになっている)	?ubui karadzi (産毛)。むだ毛も同じ。
kussama (皮膚病の一種)。samī (かいせん)	tsi: (血)
ko: (皮)	tsi: daraki (血だらけ)
tiqko: (手の皮)	tsi:simmami (血豆)
siraφē (しらくも)	kusuri (薬)
?aomi (青)	kusuri numi (薬を飲む)
?ada (ほくろ)	sidzirikusuri (せんじ薬)
jonedagu (扁桃腺)	musikusuri (虫下し)
dagu (こぶ)	suida:fi (膏薬)。張って吸い出すということ。
simmami (手にできるたこ)	jakkjoku (薬屋)
mīdzibukuri (水ぶくれ)	duku (毒)
jakidu (やけど)	mja:ko (脈)
?jummi (いぼ)	kinniku (筋肉)
kussama (あばた)	tsi:sidzi (血筋)
harimun (腫物)	φuni (骨)
	tsige (関節)
	figkeitsu: (神経痛)

jami (病氣)
 kambjo:nin (看病人)
 kitsigai (狂者)
 kadʒifiki (風邪)
 φurui (マラリヤ)
 hajari (はやる)
 nitsi (熱)
 sikitsiki (ひきつけ)
 kugutsi (てんかん)
 ʔarja kugutsi sun tʃu (あ
 の人はてんかん持ちの人)
 hatsikja (はしか)
 kudasi (下痢)
 ʔisa (医者)
 φutsi (もぐさ)
 jatsu (灸)
 jatsu jaki (灸をすえる)
 tsibu (つぼ, 急所)
 ʔuberi (ただれる)
 jatsikidziga ʔuberi (灸の傷が
 ただれる)
 no:ri (治る)
 mutsikesi (ぶりかえす)
 ʔiki φukkwesi (息をふきかえす。生
 きかえる)
 ʔiffo: (一生涯)
 mʔa:riri (生まれる)
 ku:ga (卵)
 ku:ga nasi (卵を産む)
 ʔja: (えな)
 sini (死ぬ)。morifi (なくなる)
 kʔwe:ri (ふとる)。kʔwe:tarutʃu
 (ふとった人)
 to:riri (やせる)。to:ritʃu
 (やせた人)

naggisa (やつれる)
 ʔudupki (おどろき)
 nimbi (寝る)。ʔaguma: (ねむい)
 φude:si (育てる)。「大きくする」とい
 う表現。
 kkʔwa φude:si (子を育てる)
 ʔakki (歩く)。終止形は ʔakkjun,
 ʔakkjuri ともいう。
 na: ʔakkjun (もう歩く)
 hoi (這う)。腹をつけて這うこと。
 tassaboi (手足をたてたように這う)。
 四つんばりになって這うこと。
 hafiri (走る)
 katteju: (飢饉の年)。kikindusi とも
 いう。
 handzikja (いれずみ)
 kasagu (かさぶた)
 ʔimi (夢)
 ʔimi ni:tsi (夢を見た)
 nigutu (寝言)
 nimbiwarai (寝笑い)
 sandzike (急に起きて迷うこと)
 nabisiŋgo (蒙古班)。「なべへぐる」の
 こと。昔は幼児が夜外出するときには、
 ʔinnukʔwa といって、額に鍋ずみをつけた。
 「犬の子」は育ちが良いからそう言った。

(2) 人間関係の語彙

wan (私)	mama ʔadʒa (養父)
ʔja: (君, お前)。同輩と目下に対して。	mama ʔama (ママ母)
ʔjakkja: (君たち, お前たち)	mammagwa (親なし子)
ʔjanniʃsimun (お前, 卑語)「お前 のようなもの」という表現。	ʔatuduri (養子, あととり)
ʔuri (あなた)。同上に対して。	ʔadʒa (配偶者の父)
ʔurita: (あなたたち)	ʔama (配偶者の母)
ʔantʃu (あの人)。ʔantʃuɣkja (あの人 たち)	kʔwa (子)
tʃʔu: (人)	wareggwa (子供)
jigga (男)	ʔa: gwa: (赤坊)
jigganu kʔwa (男の子)	butagwa (双生児)
wunagʊ: (女)	tʃʔu: si: dʒi mʔari (ひとりっ子)。「一粒 生まれ」という表現。
wunagunu kʔwa (女の子)	si:re(:) gwa (私生児)
tudzi wutu (夫婦)	moroigwa (養子, もらい子)
tudzi (妻)	jigganukʔwa (むすこ)
sakiduminu tudzi (先妻)	tʃo: nan (長男), dzinan (次男)
ʔatuduminu tudzi (後妻)	sannan (三男), jonnann (四男)
ʔutu (夫)	wunagunukʔwa (むすめ)
ʔujamutu (里, 親元)	tʃo: dʒo (長女), dʒidʒo (次女)
te: tsikjama (家事, 針仕事や機織りなど)	sandʒo (三女)
su: tumi (こじゅうと)	hatsugwa (初子)
satuʔuja (しゅうと, しゅうとめ)。 「里親」に対応する語か。	hatsujigganu kʔwa (長男)
jumi (嫁)	simaigwa (末子)
mukudun (婿)。女側から言うことば。 - dun は鹿児島方言の影響と思われる。	ʔuttʃu (おとな)
dusi (友だち)	tʃʔu: nami neɣkʔwa (身体に欠陥のある人)
ʔuja (親)	nise (若者)
ʔadʒa (父)	mē: rē (女童, 若い女性)
ʔama (母)	ʔuittʃu (老人)
mamaʔuja (ママ親)	mē: rē (娘)
	tusi (年令)
	tʃʔu: tusi (同い年)
	si: da (年上)。きょうだいの中で男女を問

わず年上の者をいう。また一般に年上の者をいう。

?uttu (年下)。きょうだいの中で男女を問わず年下の者をいう。また一般に年下の者をいう。

ja: (家)

?uritagaja: (あなたの家)

wakkjaja: (私の家)

kine (家族, 家庭)

jannusi (戸主)

kjo:de (親戚, 兄弟)

?ujamutu (本家)

ja:wa:ri (分家)

ja:wa:tan (分家した)

m²aga (分家した子供たち, 孫)

?udzisi (先祖)

k²wa:m²aga (子孫)

?adga (祖父)。dziともいう。

hansarë (祖母)。老女に対する尊称。

自分の祖母には ?an という。

※「祖父母」の総称は無回答。

?uidzi: (曾祖父)

?ui?an (曾祖母)

※「曾祖父母」の総称は無回答。

m²aga (孫)

jigganu m²aga (孫むすこ)

wunagunu m²aga (孫むすめ)

m²aga (内孫)

ki: m²aga (外孫)

hatsi m²aga (初孫)

mata m²aga (ひまご)

※「やしゃご」は無回答。

kjo:de (きょうだい)

jigganu kjo:de (男きょうだい)

wunagunu kjo:de (女のきょうだい)

ji:ri (女きょうだいからみた男きょうだい)。「ゑけり」に対応する語。

ji:ri:fo: (ゑけり様)

wunari (男きょうだいからみた女きょうだい)。「をなり」に対応する語。

wunari:fo: (をなり様) 敬称の

-fo: は鹿児島方言の-ジョ(尉・

丈)を移入したものと思われる。こ

の形は沖縄にはない。

bo: (兄)

?uttu (弟)

?aka (姉)

?uttu (妹)

harafiki kjo:de (いとこ)

matafiki kjo:de (またいとこ)

wuibo: (甥)

mi:dgo (姪)

nja: (大叔父)

?u:nja: (上の叔父)

k²wa: nja: (下の叔父)

ba: (大叔母)

?u:ba: (上の叔母)

k²wa:ba: (下の叔母)

nja: (叔父)

ba: (叔母)

ja: mutsi (嫁ぐ)

tudgi kamiri (男の側から見て結婚すること, 妻をもつ)

jiggadatsi (寡夫)

wunagudatsi (寡婦)

k²wa: muri (子守)

(3) 生物関係の語彙

- kĩdamun (獣)
 wu:mun (雄)
 mĩ:mun (雌)
 wu:duri (雄鶏)
 mĩduri (雌鶏)
 kuti: (雄牛)
 ʔunan (雌牛)
 kamimun (食物一般)
 ʔwammē: (豚の餌)
 ʔusimmē: (牛の餌)
 mʔammē: (馬の餌)
 jagimmē: (山羊の餌)
 turimmē: (鶏の餌)
 mundani (魚を釣る餌)
 kagu (撒き餌)
 kagu kamasĩ (撒き餌をやる)
 tamasi (分, 配当された分量)
 ʔwendamasĩ ともいう。
 wa:tamasĩ (私の分)
 ʔja:tamasĩ (君の分)
 ʔja:wari (君の分)
 tsĩmbi (交尾する)
 ʔin (犬)
 ʔusagi (兎)
 ʔusi (牛)。牧場は少なかったが、牛の角
 に焼き印を押して所有を示した。
 ʔuma (馬)
 ko:mori (こうもり)
 saru (猿)
 mjau (猫)
 wu:mjau (雄猫)
 wē:mjau (雌猫)
- ʔwe:ganasi (ねずみ)。jumugganasi と
 も、nĩdziimi ともいう。さとうきびを喰い散ら
 さないようにと、大晦日、正月にごはんをたい
 てねずみにやった。
 ʔwa: (豚)
 ʔwassĩ (豚肉)
 se:buni (あばら骨)
 ʔo:kʔate buni (足骨, 後の豚足)
 misĩgebuni (前足の骨)
 ʔwa:karadzĩbuni (頭骨)。正月3日
 には裏座敷に豚を屠って頭・足・肉をぶ
 らさげた。正月の一つの飾りであった。
 so:dzuke (塩漬) 豚肉を保存用に塩
 漬けたもの。
 jamasi (猪)
 jamasi ʔiri (猪を射る)
 jagi (山羊)
 tsino (角)
 gundʒa (鯨)
 gundʒanu ʔuba (鯨の尾びれ)
 ʔaçiru (あひる)
 ʔuguisu (うぐいす)。共通語。
 kamo (鴨)
 jundura (雀)
 gara (からす)
 ta: (鷹)
 turi (鳥, にわとり)
 kuga sĩdasi (にわとりが交尾する)
 sĩbasĩ は他の琉球では「孵化す
 る」ことを表わす。
 kuga ʔuso:sĩ (卵をかえす)
 kagan (鳥のとさか)

- turin si (鳥小屋)
 ?wansi (豚小屋)
 jaginusi (山羊の小屋)
 mʔan jaduri (馬小屋)
 ?usin jaduri (牛小屋)
 kago (鳥籠)
 pijo (ひよこ)
 sideri (鳥が孵化する)
 hatu (鳩)
 mintsikuφu (ふくろう)
 ふくろうは ko:ko: と鳴く。
 ?issami (目白)
 ?atu (海鳥の一種。もぐって魚をとる鳥)
 tsidzira (千鳥)
 garasimata (つばめ)

 jannusi (やもり)
 kinogira (とかげ)
 ?a:tanfo (蛙)
 tabiru (おたまじゃくし)
 kami (亀)
 madzimun (ハブ)
 garasubu (からす蛇)
 mattibu (赤蛇)
 ?aonudza (青大将)
 kwa:taro (まむし)
 ?ju: (魚)
 ?jummi (魚の身)
 tairo: (大漁)
 kadusadgi (むろあじ)
 ?unagi (鰻)
 katsuo (鰹)
 katasira φennja (かれい)
 kiggjo (金魚)
 koi (鯉)
- saba (鯖)
 saba (鮫)
 tsinu (鯛)
 hamakutsibi (白鯛)
 taju (どじょう)
 φuna (鮒)
 tubiju (飛魚)
 φudzisi (ふぐ)
 nigijaba (針千本)
 nigijaba (針千本) nigi は「のぎ」
 (刺)のこと。沖縄ではアバサーという。
 siykkira (なまこ)
 ?ibi (海老)
 ?ikki (鱗)。「ふけ」と同語を用いる。
 ?udzura (鶉)
 φitu (いるか)
 ?ani (蟻)
 gadzan (蚊)
 habiru (蛾)
 habiru (蝶)。「蛾」と同語を用いる。
 bibigai (しゃこ貝)。bi:bu:gai ともいう。
 bura (ほら貝)
 tʃontʃon (ひばり)
 hani (羽)
 hanagi (翼)
 gata (ばった)
 hai (縄)
 ?o:bai (青蠅)
 ?weganasi (鼠)。
 jumugganasi ともいう。
 toakin (まぐろ)
 ※「めだか」は無回答。
 ?ambamusi (油虫)。大根の葉のうらや
 キャベツなどに居る。
 jamatumusa (ごきぶり)

- ʔubzi (うじ)
- kandamusī (芋の葉を食う害虫)
- ʔudʒamusa (芋虫の一種)
- dzi:musi (芋虫の一種)
- ※「こおろぎ」「こがね虫」「尺取り虫」は無回答。
- sīran (虱)
- tsia (蟬)
- ʔe:dama (とんぼ)
- ʔa:ʔe:dama (赤とんぼ)
- kani ʔe:da (鉄色をしたとんぼ)
- dzi:ragko (斑点のあるとんぼ)
- nu:mi (蚤)
- hatsi (蜂)
- tsiburubatsi (熊蜂)
- giabatsi (ぬか蜂)
- ʔa:batsi (赤蜂)
- tsitsibatsi (土蜂)
- musi (虫)
- musikera ともいう。
- tsinnjan (かたつむり)
- ʔaman (やしがに)。「やどかり」も同じ。
- gani (蟹)
- 「海蟹」として, gasama, ʔitsinukē, tsimāguru, jedagan, kimigan(有毒)などがある。
- 「川蟹」として, ko:gan, ta:gan, si:gan などがある。
- maŋk²ubo (蜘蛛)
- maŋkubonusi (蜘蛛の巣)
- nanta kudzira (なめくじ)
- 一昨年頃から黒色の種類が発生してきている。
- mīda (みみず)
- mukadi (百足)
- gaŋsu (あさり)
- hamaguri (はまぐり)
- ʔikja (烏賊)
- gatsitsi (うに)
- ʔisoda (車えび)
- ʔibi (伊勢えび)
- magarinnja (蛸貝)
- bitu (蛸貝の一種。沖縄のチンボラー)
- tīdara (蛸貝の一種。沖縄のチナダ)
- sono: (くらげ)。食用にならない
- to: (蛸)。語中の k→ʔ の変化が起こり、ついに k が脱落したもの。
- * tako→taku→taʔu→tau→to:
- tannja (たにし)
- ʔaman (やどかり)
- ʔu: ʔaman (大やどかり)
- duʔu (尾)
- ʔinnu duʔu (犬の尾)
- kamīnu ku: (亀の甲)
- ganīnu ku: (蟹の甲)
- ki:ba (牙)
- kuga (卵)
- ʔisodamaitʃan (かまきり)
- kīnnufi (木のぼりとかげ)
- garasimata (つばめ)
- ʔisīsibusī (せきれい)
- ko:kan (魚を取って食す川鳥の一種)
- si: (巢)
- ※「獅子」は無回答。

(4) 植物関係の語彙

ʔadani (阿旦)	φudinφutsi (稻の穂ばらみ)
matabinari (うらなり)	tsibomi (つぼみ)。共通語。本来は
jeda (枝)	kokomuri という。
ko: (皮)	kinniguri (木の根)
kiŋko: (木の皮)	kinuha (葉)
nari (果実)	hana (花)
kinnari (木の実)	kinu hana (木の花)
ha:φuri (落葉)	hananu hantitan (花が落ちた)
sura (梢)	φusi (節)。竹の節。
na:dziku (木のとっぺん)	busi (指の節, 木の節)
kinsa (木蔭)。「木の下」という表現。	gabu (木の節の盛り上ったところ)
kinniguri (木の根)	φu: (穂)
tʔa: mata (木のまた)	ʔininuφu: (稻の穂)
matabara (またのある柱)	basa (芭蕉)
kusa (草)	basagin (芭蕉の着物)
sibakusa (芝生)	basanari (バナナの実)「芭蕉成り」
ʔara:dzi (草原・荒地)	という表現。
sasiŋi (挿し木)	wakaba (若芽)
ʔueki (植え木)	mami (豆)
ki:nu sin (芯)	mamami (あずき)
tane (種)	ʔudzuramami (黒まめ)
tane maki (種蒔)	φiro: (さやえんどう)
ʔo: (栗)	ʔitʃubi (いちご)
mugi (麦)	φui (ひえ)
mugitʃani (麦種)	ma:tsiburu (ひょうたん)
φu:mugi (大麦)	※ 「福木」は無回答。
komugi (小麦)共通語の移入。	jamatusuji (杉)
tanimumi (粃種)	de:kuni (大根)
ʔini (稲)	gara (竹)
nae (稲苗)	garap̄kwa (竹の子)
kumi (米)	dzimami (落花生)
ʔinikari (稲刈り)	tsikimun (漬物)

- jeda (枝)
- tsīru (蔓)
- sīburi (冬瓜)
- nigi (バラなどのとげ)
- ʔjunnigi (魚のとげ)
- ʔida (板などのとげ)
- mandzōmai (パイヤ)
- hansin (さつまいも)
- ta:in (田芋)
- mudzi (田芋の茎)
- ʔa:in (里芋)
- ko:sajan (山芋)
- dʒagaʔimo (じゃがいも)
- ※「いんげん豆」は無回答。
- ʔuri (瓜)
- nigaʔuri (苦瓜)
- kiʔuri (きゅうり)
- jendo: (えんどう豆)。大平洋戦争以後、本土から移入した豆である。
- gadzīmaru (がじゅまる)
- kakinoki (柿)
- ʃibugaki (山柿)。網の染料〈黒〉に用いられる。沖縄では柿がないので「豚の生血」で網を染めた。
- ko:dzi (麴)
- ko:dzīnu mi:tun (麴が生えている)
- to:tsīburu (かぼちゃ)
- dziki (すすき)
- to:dʒiki (ささがや)
- naba (きのこ)
- matsinaba (まつたけ)
- kinokonaba (しいたけ)
- migguri (がじゅまるなどに多く出来るきのこ)
- bansīro: (ばんじろう)
- kwa:gi (桑)
- kwa:gi ha: (桑の葉)
- kwa:ginu tani (桑の実)
- gumbo (牛蒡)
- kubu (昆布)
- konnjaku (こんにゃく)
- kīdagi (榊)
- nodzakura (桜)
- saʒkira (笹)。saʒkira kandaともいう。
- ʔugi (さとうきび)
- sanembana (さねん花)。大島には昔からあったが徳之島にはなかった。最近、大島から入ってきた。
- sabuten (さぼてん)
- ʔambaki (さるすべり)
- ʔuruʔisi (珊瑚礁)。sīraʔe:ʔisiともいう。これで焼いて石灰を作った。sīraʔe:は「石灰」のこと。
- karusi (軽石)
- ʃuro (棕櫚)
- kuba (檳榔)
- ʃo:ga (しょうが)
- ※「とうがん」は無回答。
- nabira (へちま)
- ma:tsīburu (ゆうがお)
- ʔasagao (朝顔)
- dziki (すすき)
- sutītsi (蘇鉄)
- sutītsi nari (蘇鉄の赤い実)
- to:ʃu mamī (大豆)。「豆腐豆」という表現。
- tamanegi (玉葱)
- tʃa: (茶)
- kufu (とうがらし)
- pi:man (ピーマン)。最近の移入語。

to:kibi (とうもろこし)
 to:gin (こうりゃん)
 tomato (とまと)
 na: (菜)
 jase (野菜一般)
 nasi (茄子)
 bira (にら)
 semmutu (ねぎの一種。わけぎ)
 negi (大型のねぎ)
 nindzün (人参)
 φiru (にんにく)
 nimbi kusa (ねむの木)
 ※「ひるぎ」は無回答。
 ʔosa (あおさ)
 kuina (のり)
 tsunomata (つのまた)
 φu:dgumi nori (すのり)
 mo: (藻草)
 bara (ばら)
 çimawari (ひまわり)。最近の移入。
 nodakura (つつじ)。
 tuiru (たんぽぽ)
 sünukī (ひのき)
 biwa (びわ)
 tsiba: (ふき)

taribana (仏桑華)。「垂れ花」という表現。
 ma:kī (榎)
 matsi (松)
 matsidziba (松葉)
 ma:tsintani (まつかさ)
 matsiʔamba (松脂)
 kunin (みかん)
 dedegunin, tonogëgunin などがある。
 midzimori (藻)
 tagkusa (田草)
 mu: (桃)
 janagi (柳)
 ※「ゆうな」は無回答。
 juri (百合)
 jurino hana (百合の花)
 φutsi (よもぎ)
 dakkjo: (らっきょう)
 wakame (わかめ)
 wata (綿)
 mokumo: (もくもう)
 ※「梅」は無回答。
 tsibaki (椿)
 warabi (わらび)。食用にしない。
 ʔasa (麻)
 ※「みょうが」は無回答。

(5) 自然関係の語彙

ʔama (あちら)。ʔari (あれ)
 ʔuma (そちら)。ʔuri (それ)
 kuma (こちら)。kuri (これ)
 da: (どこ)

da:katʃi ʔidzaggə ʔara
 wakaran (どこへ行ったかわか
 らない)
 .da:ga (どこか)

- tati (縦)
tati^{ja} naga: (縦は長い)
- juku (横)
juku^{ja} tsika: (横は近い)
- majuku (真横)
- fube (傍)
wa: fube (私の側)
ʔamaga fube (向うの側)
- fube (隣)
- to: (平坦)
mato: (真平ら)
mato^{ja}fiki (平坦屋敷)
- nigiri (右)
nigirin ho: (右側)
- sigjari (左)
sigjarin ho: (左側)
- ʔui (上)
ʔuinu ho: (上の方)
- ko:kami (川上)
- konfiri (川下)
- ʔwa:ra (風上)
- sa:ra (風下)
- fuz: (下)「しも」(下)に対応。
fuz: ho: (下の方)
- manna: (真中)
- sa:sima (逆さ)
sa:sima ke:ri (逆さにひっくり返る)
- sakadatsi (逆立ち)
- ke:fima (着物の裏返し)
- te:tsidzin (山頂)。「岳頂」という表現。
te:gkusi (岳の後)。昔、木材をきり出したところ。
- saki (先)
hari saki (針先)
- me: (前)
me:nu ja: (前の家)
- kusi (後)
ja:gkusi (家の後方)
ja:gkusi^{nu}ja: (後の家)。kusi^{nu}ja: ともいう。
- ma:ri (まわり)
- tunari (隣り)
ʔamanuja (あそこの家)
ʔamanujanu jumi narun (あそこの家の嫁になる)
- ʔagerë (東)。ʔagari ともいう。
ʔagarinuja (東の家)
- kutsi (東風)
kutsinu kadë (東風)
- ʔiri (西)
ʔirinuja (西の家)
- satturikadi (申酉の方向からの風)
- te:ʔurufi (岳おろし、西方の岳から吹く冷たい風)
- ʔë: (南)
me:nuja (南の家、前方の家)。家屋はすべて南向きに建っている。)
- ʔë:gkadzi (南風)
- nisi (北)
nisi^{nu}ja (北)
- nisi:gkadzi (北風)
ʔaokita (北風)。冬冷い風でよろこばれない。
- kadi (風)
tsirimaki (つむじ風)
ʔo:kadi (台風)
kaifi (かえし)
ʔuikadi (追い風)
jukukadi (横風)。jukuʔutsi と

- もいう。
- mukaikadi (向かい風)
- φuni harafi (舟を走らす)
- nami (波)
- ʔo:nami (大波)
- firanami (白波)
- bo:dzinami (三角波)
- nagi (風)
- tarimidzi ʔukimun nifun (たらいの中の水のように風いでいる)
- ʔiru (色)
- ʔaka (赤)。kuro (黒)。
- ʔao (青)。
- siro (白)。midori (緑)。
- ki:ro (黄)。
- tʃairo (茶)。murasaki (紫)。
- nitʃaʔiro (土色)。
- kusahan (悪いにおい)
- kabahan (良いにおい)
- ko:bikada (着物や布切のこげらにおい)
- nandziki (おこげ)
- nandziki kusai (おこげがくさい)
- më:rikada (おこげにおい)
- ʔe:da (間)
- tunaritu kumatunu ʔe:da (隣り
とこちらとの間)
- hanari (離れ)。「離島」のこと。海で隔て
られている間。
- jerabutu tukunufimanu hanari
(沖永良部島と徳之島との間)
- ʔa:kari (あかり)
- dampu (ランプ)
- dzi: (陸)
- ʔasase (浅瀬)
- jama (山)。të: (岳)も用いる。
- jama nuburi (山に登れ)
- jamakatʃi ʔiki (山へ行く)
- kisi (崖)「海岸」は表わさない。
「きし」が残っているのは与那国島・沖
永良部島・徳之島などである。
- muri (丘)
- gusuku (城)。井之川には石垣を積んだ昔
の城趾がある。
- ʔigu (谷)
- sira (坂)。けわしい坂。
- tsidzi (頂)
- të:tsidzi (岳の頂)
- ʔikkja (家屋の頂)
- jansira (屋根のむね)
- nuki (ひさし)
- te:bara (岳の腹)
- mitsi (道)
- ʔabusı (畦)
- ta: (田)
- no:fu (家の近くにある田)
- haruda (部落から離れている田)
- haru (畑)
- ʔatari (家の近くにある畑)
- mi: (穴)
- mi katʃi ʔutʃita (穴に落ちた)
- degutsi (出口)
- ʔirigutsi (入口)
- sukima (すきま)
- sakë (境)
- kadugutsi (門)
- businumı: (節穴)
- mi: ʔakiri (穴をあけよ)
- kirifi ʔiri (錐であける)
- burufi ʔiri (ボートであける)
- ʔami (雨)

- niwaka ʔami (にわか雨)
nagami (梅雨)
katamburi (片降り)
ʔarare (あられ)
ʔamadari midzi (雨だれ)
ʔumidzi (大水)
ʔaradzi (荒地)
sunadzi (砂地)
ʔiki (池)
ʔisi (石)
ɸu:ʔisi (岩)
ʔa:ʔisi (赤石)
ʔun (海)
to:ka ʔun (遠い海)
ɸuka ʔun (深い海)
ʔuki (沖)
ʔura (湾)。「浦」の意にもなる。
bomanu ʔura (母間の浦)
kidunu ʔura (花徳の浦)
misaki (岬)
minato (港)
kakurisi (暗礁)
kuna kakurisinu ʔaŋki: ki:
tsikiri (ここに暗礁があるから注意
せよ)
ʔumuti (おもて)
ʔura (裏)
tataminu kumo (曇のうら)
ʔutu (音)
ɕiko:kinu ʔutu (飛行機の音)
ʔaradzi (開墾地)
ʔaradziʔutsi (開墾地を耕す)
haru (野)
kagi (蔭)
kagika tʃi ku: (蔭に来る)
- tʃʔuŋkagi (人影)
dunu kagi (自分の影)
sigata (姿)
sigatanu kjurattʃʔu (姿がきれ
いな人)
katatsi (形)
kjurawunagu (美しい女)
kimugjurattʃʔu (肝のきれいな人、
心のきれいな人)
te: (丈)
te:taka: (丈が高い)
dʒimbuku: (小さい人)。dʒimbuku
tʃu: ともいう。
daiban naru (大きくなる)
narukamisama (雷)
narukamisamanu hantitan (雷
が落ちた)
garagara (雷鳴)
ko: (川)
tsiŋgjo (井戸)
ʔidgun (泉)
ko: nagari (川を流れる)
ko: nuburi (川をのぼる)
ko: kudari (川をくだる)
ko: ʔanda (川の側)
wakjaja:ja ko:ʔanda (私の家
は川の側)
ɸu:ko (大川)。井之川の真中を流
れている川の名。
konfiri (川尻)
më:gugko (前側にある川)。宝川
のこと。
ʔike (水たまり)
kumori (池, 水たまり)
midzīgumori (水の多い池)

ʔidʒun (泉)	あがる)
taki (滝)	tīdaganasīnu ʔusamuri (太陽
kani (金)	が沈む)
kugane (黄金)	tīdaganasīnu kumukatʃi
ʔa:ʒani (銅)。ʔa:ʒaniju:ju	kakurīta (太陽が雲に隠れた)
(銅線)	ʔasatīda (朝日)
tetsu (鉄)	ʔasatīdanu ʔusa ari (朝日が
kumu (雲)	のぼる)
kumunu hafiri (雲が流れる)	santukjatīda (夕日)。今にも沈もうとし
kiri (霧)	ている夕日のことをいう。夕日の沈む頃に織物
kirikandu (霧がかかっている)	を切ると体が弱くなるし、また生まれてくる子
kībusī (煙)	供の体も弱くなると言われて、それを忌みきら
misaki (崎・岬)	う。織物を切るには朝から昼頃までがよいと言
ʔuʃu (潮)	われている。
ʃubarai (塩水・井戸の塩っぱい水)	ma:ru (玉)
ʔamadari mīdzī (あま水)	tsību (粒)
nai (地震)。dzīsīnともいう。	tʃʔutsībunu kumī (一粒の米)
nainu ʔidʒun (地震がゆれる)	dzi: (地)。dzīmen (地面)
kjuntsika kjunutsika (地震の時に唱	nīʃa (土)
える呪文、四回唱える)	nīʃaburu (土のかたまり)
sīma (島、部落・故郷)	nīʃadarakē (泥だらけ)
ʔisagu (砂)	duru (泥)
ʃiro ʔisagu (白砂)	mutsī nīʃa (粘土)
ʔisagu turina (砂を取るな)	tento:ʒanasī (天)
kuroʔisagu (黒砂)	çi: (日)
miʃa (土)	çikadʒi (日数)
ʃuku (底)	tsīkīʒanasī (月)。「お月様」ということ。
nabīnufuku (鍋の底)	tsīkīʒanasīnu ʔusagari (月がの
kōmorīnufuku (池の底)	ぼる)
ta:ʒate (田畑)	tsīkīʒanasīnu ʔusamuri (月がお
hate (畑)	りる)
ʔatari (家に近い畑)	tsīki (月)
no:ʃu (家に近い田)	kuntsīki (今月)
tīdaganasī (太陽)	ʃusī (星)
tīdaganasīnu ʔusagari (太陽が	ʃusībaritun (星がはっきり見える

- 夜空の形容)「星晴れている」という表現。
- tugarimun (尖ったもの)
- sīn (角)
- jasikinu sīn (屋敷の角)
- saŋkaku (三角)。φudo ともいう。
- sikaku (四角)
- masikaku (真四角)
- maru (丸, 円)
- marowari (丸い・円い)
- maroan (丸い・円い)
- sīn (隅)
- ju:tsīnusīn (四隅)
- ʃubē (隣り・側)
- ja:nʃubē (家の隣り)
- mīdzī (水)
- nīndzūmīdzī (どぶ水)。nīndzū は「溝」のことをいう。
- nagi (風)
- ʔambanagi (べた風)。「油風」という表現。
- kadzī (風)。ʔu:kadzī (大風)。「嵐」の意にもなる。
- kadziga tʃʔuwa (風が強い)
- ʔuŋkadzī (海嵐)
- sanʔurufi (山から吹く嵐)
- nami (波)
- ʔu:nami (大波)
- naminu ʔidziti (波が出た)
- ʔufu (潮)
- ʃuiki (潮の流れ)
- kudarifu (沖永良部島方面へ流れる潮)
- noborifu (奄美大島方面へ流れる潮)
- ʃu:mitsī (潮満ち, 満潮のこと)
- ʃu:siri (潮, 干潮のこと)
- tsīnami (津波)
- jamaʃu (山から流れてくる洪水)
- jammē: (前庭, 家の前の広場)
- hama (浜)
- ʔo:hama (大浜)
- ʃimahadziri (島のはずれ)
- mʔatsi (火)
- mʔatsīnu ju: mē:ri (火がよ
く燃える)
- kʔwadzi do: (火事だ)
- mʔatsīnu hana (ほのお)
- kʔwadzi (火事)
- nītsi (熱)
- dainītsi (高熱)
- sikjari (光)
- ʔuderi (稲光り)
- ʔagarenu sikjari (ランプの光)
- kurami (闇)
- makkurajami (真暗闇)
- kampatsi (ひでり)。「旱魃」のこと。
- sīgari (6月頃, 旱魃のため草木が
枯れること。稲, さとうきびなど立ち
枯れすること。
- sīgari の時には, さとうきびの節と節
の間隔が短い。
- tʃʔu (人・他人)
- tʃʔusīmatʃʔu (他の島の人, 同郷でな
い人)
- ʔaja (ひび)
- tsiju (露)
- jubija tsijunu ʃutian (夕べは
露が降った)
- ʔo:butsi (泡)
- ju: (湯)
- ju: tandzūn (湯を沸かす)

ju: tandʒuri (")
 wakasimidzi (湯ざまし)
 ?atsiki (湯気)
 nindʒu (溝)
 tamari (ため池)
 mitsi (道)
 jama mitsi (山路)
 hasi (橋)
 kujumi (曆)
 ?itʃi (何時)
 ?itʃin kiga (何時, 来るか)
 mukasi (昔)
 mukasi banasi (昔話)
 sitsidama (季節)
 haru (春), natsi (夏), ?aki
 (秋), ɸuju (冬), maɸuju
 (真冬)
 sa ɸɸwatsinu ?ajaman (三月頃
 の気候)
 dujutida (6, 7, 8月頃の暑い
 太陽)
 muduri tida (9, 10月頃の暑
 い太陽, 残暑)
 ɸujugumori (大寒の頃の気候)
 sikadzi (毎日)。「日数」に対応する。
 sikadzi hataraki (毎日働く)
 sikadzi ?asibi (毎日遊ぶ)
 ?atukipkagi (毎朝)。「?atuki」は「暁」の
 こと。
 joneɸkagi (毎晩)
 tʃʃi:ɸusi (一日おき)。「一日越し」とい
 う表現。
 tʃʃi:ɸusi hataraki (一日おきに
 働く)
 tʃʃi:ɸusi ?idgiri (一日おきに出

る)
 judu:si (一晩中, 夜通し)
 judu:si ?asobi (一晩中遊ぶ)
 tʃʃa:haru (一日中)
 tʃʃa:haru hataraki (一日中働
 く)
 sikamaku (午前中)。sikama (朝)
 と waku (間)の複合語。
 sikamaku hataratʃan (午前中
 働いた)
 jusikuriwaku (午後の間中)
 jusikuriwaku nibutan (午後の
 間中, 寝た), ~ jasidan (~休
 んだ)
 sakima (さっき)
 sakima tʃan (さっき来た)
 mē: (前)
 mē:nuçi (前の日)
 ?atu (後)
 ?atunuçi (後の日)
 na:tʃa (翌日)
 kunuguru (この頃)
 kunuguro: tʃʃaɸkutu ne:n
 (この頃は来たことがない)
 ɸē:sa (この間)
 ɸē:saja tʃʃaɸfiga (この間は来
 たが)
 na:tʃa (翌日)
 ju:je:ri (夜明け)
 ju:je:ri mē: (夜明け前)
 ?a:tuki (暁)
 haja?oki (早起き)
 ju?ake (朝の5, 6時頃)
 nisarukami?uri (朝の7, 8時頃)。
 nisaruru は朝食のこと。「朝食事」

(朝食折)という表現。

sikama (朝)。暁から12時までの間を指す。

nisaruru (朝食)

çimmadga (朝の10時のお茶)

çimma (昼)

?aʃi (昼食), ?aʃikami?uri

(昼食時)

jusikuritʃa (昼3時頃のお茶)

jusikuritʃa?uri (昼3時頃のお茶の
時間)

jusikuri (午後1時頃から5時頃までの間)

jukkwi?uri (夕食)

juʃi (夕食)

juru (夜)

juna (夜中)

majuna (真夜中)

çimma (昼間)

kju: (今日)

?atʃa (明日)

?asati (あさって)

jokka (しあさって)

※「五日あと」からは特に言わない。

kinu (昨日)

?utti (おととい)

juwanati (さきおととい)

kju:?atuki (今朝)。「今日暁」という
こと。

?atʃa?atuki (明朝)。「明日暁」という
こと。

kinu?atuki (昨朝)

jusari (今夜)

?atʃajone (明晩)

?asatiga juru (明々晩)

jubi (昨晩)

?uttiga juru (一昨晩)

kuntsiki (今月)

raigetsi (来月)

?idgarutsiki (先月)

kutusi (今年)

jani (来年)

nʔazmitsi (再来年)

nʔa :jutu (再来年の次の年)

kudu (去年)

mitsunati (三年前)

jutunati (四年前)

ʃo:rgwandziki (正月)

nigwatsi (二月)

saggwatsi (三月)

siḡwatsi (四月)

gugwatsi (五月)

rukugwatsi (六月)

siṯsiḡwatsi (七月)

hatsiḡwatsi (八月)

kugwatsi (九月)

dgu:ḡwatsi (十月)

simutsiki (十一月)

siwasi (十二月)

ti:tsi (一つ)

ta:tsi (二つ)

mi:tsi (三つ)

ju:tsi (四つ)

?itsitsi (五つ)

mu:tsi (六つ)

nanatsi (七つ)

ja:tsi (八つ)

kunutsi (九つ)

tu: (十)

dgu:?itsi (十一)

nidgu: (二十)

sandḡu: (三十)

jondʒu: (四十)
 godʒu: (五十)
 rokudʒu: (六十)
 nanadʒu: (七十)
 hatsidʒu: (八十)
 kju:dʒu (九十)
 saku (百)
 nijaku (二百)
 sen (千)
 man (万)
 tʃʷuri (一人)
 tʃʷari (二人)
 mitʃʷari (三人)
 jutari (四人)
 ʔitsitari (五人)
 mutari (六人)
 nanatari (七人)
 jatari (八人)
 kuntari (九人)
 tutari (十人)
 tʃʷukëri (一回)「ひとりかえり」(一帰り)
 という表現。
 tʃʷusara (一皿), tʃʷumari
 (一碗), tʃʷutsikan (一つかみ),
 tʃʷutaba (一束)
 tʃʷakëri (二回)
 tʃʷasara (二皿), tʃʷamari (二碗),
 tʃʷatsikan (二つかみ), tʃʷataba (二束)
 mikëri (三回)
 misara (三皿), mimari (三碗),
 mitsikan (三つかみ), mitaba (三束)
 jukëri (四回)
 ʔitsikëri (五回)
 mukëri (六回)
 nanakëri (七回)

jakëri (八回)
 kuḡkëri (九回)
 tukëri (十回)
 とった魚は ʔitsimë: (一枚), nimmë:
 (二枚)のように数える。籠に入れたのは
 tʃʷu:tiru (一籠), tʃʷa:tiru (二籠)
 のように数える。
 ʔikutsi (いくつ)
 ʔikutsi ʔagga (いくつあるか)
 ʔikifa (いくら)
 ʔikifa:ga (いくらか)
 ʔikifa:ʔatimma kwiri (いくら
 あっても呉れ)
 mu:ru (全部)
 mu:ru ʔuri (皆売れ)
 kataniʔubu (片方が重いもの)
 kataho: (片方)
 hambun (半分)
 do:ho: (両方)
 bai (倍)
 ta:tsiga siko (二倍)
 mi:tsiga siko (三倍)
 kurigahe (くれくらの大きさ)
 kurituʔinsa (これと同じ量)

(6) 飲食関係の語彙

nisaru (朝食)	sikiban kami (お粥を食う)
ʔafi (昼食)	saki (酒)
juɸi (夕食)	sata (砂糖)
çimmatʃa (朝10時頃のお茶), çimmadʒa ともいう。	namasi (刺身)
jusikuritʃa (昼3時頃のお茶)	namasi kiri (刺身を切る)
junanisaru (夜食)。夜の12時頃の食事。 昔は藷草をととのえる仕事を夜間やった。	maʃu (塩)
nikjagiri (召し上る)。食事一般, たばこ 等にいう。	maʃu taki (塩をたく)
ʔadzi (味)	ʔufu (潮)
darëjami (晩酌)。九州方言を移入した もの。	ʃoju (醤油)
ʔamedama (飴玉)	kitsibë:ri (酢)
ʔan (餡)。ʔadʒikiともいう。	sembe (せんべい)
ʔudon (うどん)	dufiban (雑炊)。普通は柔らかなもの。 ʔambajaki (いためもの)。「油焼き」 という表現。
katëmun (おかず)	taku (たばこ)
siru (味噌汁)	taku nikjagiri ʃori (たばこ を召し上って下さい)
nandziki (おこげ)	kisiru (きせる。煙管)
katsibusï (鏝節)	takuʔiri (たばこ入れ)
kamabuku (かまぼこ)	tsino: (木で彫ったたばこ入れ)
kamjummun (食いもの)	kisinjukufu (きせるのやに)。「煙管の 糞」という表現。
ku: (粉)	takubun (たばこ盆)
kinako (きな粉)	ɸë:ʃiki (竹で作ったもので, きせ るで吸い終えたたばこの灰を打ってそ れを出すもの)
k ² wakki: (御馳走)	sirituri (火をとる鉢)
kamjummun watʃamiri (料理する)	dagu (だんご)
ʔuban (ごはん)	tʃa: (茶)
kumi (米)	tʃabafira (茶柱)。茶柱が立つと縁起が 良いと言われる。
ʔikkigumi (煎り米)	tʃaɸkasi (お茶のだしがら)
sakugumi (うるち米)	
mutsigumi (もち米)	
sikiban (お粥)	

tsikimun (漬物)	watammi: kadi (腹一杯食う)
timpura (てんぷら)。?amba?agi (油揚げ)	?o:gui (大食い)
namamun (生もの)	mifu (味噌)
mandgo (饅頭)	mutsi (餅)
k ² wasi (お菓子)	mojaʃi (もやし)
?ippai (満腹)	ju: (湯)

(7) 衣服関係の語彙

?itʃu (糸)	kin (着物)
mumin?itʃu (木綿糸)	ɸudaggi (普段着)。共通語の移入。
kinu?itʃu (絹糸)	kjuragin (よそいき。きれいな着物)
handzikja (いれずみ)	ʃudina (仕事着、木綿糸で作る)
haikara (おしゃれ)	jaridunda (ぼろの着物)
?ofiroi (おしろい)	marigo (おしめ)
sikari k ² ju:bi (おぶい紐)。k ² ju:bi は「帯」。おもろ時代の「ききおび」と同語。	hadagi (肌着)
haggiri (おぶう)	dzubonsita (ももひき)
k ² wa: haggiri (子をおぶう)	mompe (もんぺ)
kasa (傘, 笠)	hakama (袴)
daggasa (こうもり傘)。最近は	?wa:gi (上着)
ko: morigasa ともいう。	kagibusu (虫干し, 蔭干し)
?amagasa (雨傘)	?itugin (絹着物)
daranigasa (番傘・からかさ)	momeggin (木綿の着物)
kubagasa (びろうの葉で作った笠)	sara (着物の裏)
muggjara gasa (麦わら帽)	?uragesi (着物を裏返しに着ること)
?amagappa (雨合羽)	ʃufu (裾)
mjo: (蓑)	kubi (襟)
mo:kasa (蓑笠)	ʃudi (袖)
sumikirigin (かすり着物)	ɸutsikinna (ふところの中)
sumikiri は「模様」のこと。	hauri (羽織)
gija (簞)	hantin (半天)
	gaito (外套)

- wata?iri (綿入れ)
 k²ju:bi (帯)
 ?obi (おたいこの帯)
 serak²ju:bi (平たい帯)
 ?irugusi (編んだ紐などの帯)
 kiwan (脚絆)
 sa:ki (櫛)。髪を整える櫛。
 jukudzaki (横櫛)
 kusi (櫛)。頭虱をとる櫛。
 ?irugusi (腰紐)
 k²intjaku (財布)
 fudo: (お金を入れる袋)
 nuimun (裁縫)
 sitatimun (仕立てもの)
 jamatumari (尻はしより)
 mo:sadzi (頭巾)
 tonogē (てぬぐい)
 ?araimun (せんたく)。?aroi (洗う)
 tasiki (褌)
 tarē (盥)
 gusan (杖)
 tībukuro (手袋)
 tabi (足袋)
 ni²fadarakē (泥だらけ)
 noro (布)
 noro?uri (布織り)
 tammun (反物)
 nuri (糊)
 nuri?iri (糊を入れる)
 hakimun (履物)
 hakimun kumi (履物をはく)
 kudzi (靴)
 ?andza (下駄)
 saba (草履)
 tabi (足袋)
- waradzi (わらじ)
 ?asinaka (わらじの短いもの)
 waragutsi (わらで作った靴)。海岸で履くもの。
 hadaŋka (裸)
 hadagka nari (裸になる)
 hada:sī (裸足)
 hada:sī nari (裸足になる)
 hanawu (鼻緒)
 hakiwu ともいう。
 katasiniφedza (片ちんば)
 mo:sardzi (頬かむり)
 mo:sadzi sī (頬かむりをする)
 mē:dari (前掛)
 mjo: (蓑)
 miġani (めがね)
 kudakamikagan (海中めがね)
 musimiġani (虫めがね)
 ※「久高」は沖縄南部の東海岸にある離島であるが、漁師のことを「久高人」で代表させるほどである。琉球地域では糸満人よりも古い漁師の層として「久高人」がある。「海中めがね」を kudaka miġagan (久高めがね) というのもそこからきている。
 ?uibigani (指輪)
 sigata (容姿)
 karadzi kiri (理髪する)
 sīgi furi (髯をそる)
 sampatsija: (理髪店)
 karadzi kiri (髪を切る)
 sasin (写真)
 jidzi (絵)
 nitaba (竹馬)
 ?aroi (洗う)
 sini ?aroi (足を洗う)

tsira simiri (顔を洗う)

ti:ʔaroi (手を洗う)

(8) 住居関係の語彙

ja: (家)	koŋkuri:to dzukuri (コンクリート造り)
ʔjakkja: jakkjagaja: (あなた方の家)	ʔamadari (軒)
wakkjawakkjagaja: (私たちの家)	kiburi (軒数を表わす接尾辞)
kine (家族)	tʃʔukiburi (一軒)
ʔjakkja: jakkjaga kine (あなた方の家族)	tʔakiburi (二軒)
ʔusin jaduri (牛小屋)	mikiburi (三軒)
mʔan jaduri (馬小屋)	jukiburi (四軒)
ʔwansi: (豚小屋)。豚は「巢」を用いる。	nikai (二階建て)
turinsi (鶏の巢)	jaduri (畑の仮小屋)
si: (巢)	satajaduri (製糖時代の畑に作った仮小屋)
jammë (庭)	ʔamimuri (雨漏り)
jagkusi (家の後)	ʔisi (椅子)。kofikake もよく用いる。
ʔatai (●屋敷内にある畑)	ʔafitʃigi (踏み台)
janna (家の中)	dʒo:gutsi (入口)
ʔkunuma (奥の座敷)	ʔumutindʒo (表の入口)
ʔumuti (上座敷)	ʔagarindʒo (東の入口)
kuda (四畳半ていどの小座敷)	ʔusindʒo (後の入口)
ʔumuti kamidʒa (上座敷, 一番座)	simowakindʒo (西側の入口)。 「下脇の門」という表現。
sirubi (中座敷)	moggutsi (門口)
tʃanoma (茶の間)	ʔuragutsi (裏口)
to:gura (台所, 炊事場)	ʔamadari (ひさし, 軒)
jafikimmawari (家敷の周囲)	ʔu:ja: (母屋)
ja: nori (移転する)。居所を移すこと。	tsiŋgo (堀井戸)。「積み川」という表現。
ja:ʔutsiri (家を移動させる)	ʔuragutsi (通用門・裏口)
gëjabuki (かやぶきの家)。gëja は「茅」のこと。	kaki (垣)
kawarabuki (瓦葺き)	ʔisiŋaki (石垣)
to:tambuki (トタン葺き)	kama (かまど)

dziru (かまど全体をいう)。「地炉」に
対応する。

katʃa (蚊帳)

garasu (ガラス)

kawara (瓦)

kura (倉)

※「高倉」は徳之島では母間、伊仙、天城
などにはあるが、井之川には昔からなかった。

ʔirigutsi (玄関, 入口)

gumi (ごみ)

tʃiribaku (ちり箱)。gumibaku (ご
み箱)。

kanakuri (かな屑)

nokokuʃu (鋸びきの屑)

ʃiki (敷居)

so:dʒi (障子)

dziru (地炉)

dzirubutsi (地炉縁)

magkubu (蜘蛛)

magkubusi (蜘蛛の巣)

sisi (煤)

ho:ki (掃除する)。笹の葉などで作った。

sasabuki (笹の箒)

mja:buki (庭箒)

tatami (畳)

tansi (簞笥)。çikidası (引き出し)

tuku (床の間)

tindʒo (天井)

jadu (戸, 雨戸)

dʒogutsi (戸口)

muggutsi (門口)

jadu ʔe:ri (戸を開ける)

jadu kʔu:ri (戸を閉める)

hammado (半窓, 高窓)

tobukuro (戸袋)

todana (戸棚)

dodai (土台)

muʔukiguja (納屋, 物置小屋)

hasi (梯子)

hara (柱)

na:bara (大黒柱)。「中柱」とい
う表現。

ʃutsima (襖)

butsidan (仏壇)

ʔudzisi (仏壇に祀られている人)。

人間がなくなると誰でも ʔudzisi になる。

ma: (部屋)

tʃʔuma (一間)

tʔama (二間)

ʔumuti (表部屋)

sirubi (奥座敷)

sentsin (便所)

ʃuru (風呂場)

munuʔuki (物置)

kadugutsi (門)

jansira (屋根)

juku (床)

jaʃiki (屋敷)

(9) 道具関係の語彙

- ʔitʃa (板) * ʔita → ʔitʃa のように t
が口蓋化している。
- munʔirimun (入れ物)
- ʔusi (臼)
- ʔisiʔusi (石臼), sikʃusi (挽臼)
- sirusi (磨臼)
- mʔaŋkusa (馬の草)
- mʔammë: (馬の飼料)
- ʔusiŋkusa (牛の草)
- ʔusimmë: (牛の飼料)
- nabimun (芋など炊いて食べさせる
 もの, 鍋もの)
- jagiŋkusa (山羊の草)
- jagimmë: (山羊の飼料)
- to:ni (豚などの飼桶)
- kʔura (鞍)
- mʔaŋkʔura (馬の鞍)
- ʔusiŋkʔura (牛の鞍)
- mukku (もっこ)。2人で手で持ち運ぶも
ので, 竹で編んだもの。
- ʔo:da (牛の背に荷を積むための道具で,
竹や縄で編んだもの)
- bakkë (ざるに紐をつけたもので, 紐を頭
にかけて, 荷を背負うもの)
- ʔusintsina (牛の鼻綱)
- hanambusi (節の付いた鼻綱)
- kutsiba (馬轡)
- ʔutsiwa (扇)。sensu (せんす)
- kubaʔutsiwa (びろうで作った扇)
- wi: (桶)
- taggo (手桶)
- ʔifiwi: (据え桶, 四斗だる)
- kuitaŋgo (肥桶)
- ʔo:juki (斧)
- katadi juki (片手斧)
- mʔa:ga (田をならす馬鍬)
- kagami (鏡)
- tiru (籠)。大きいもので, 草を入れたり,
芋を入れたりするのに用いる。
- ʔuboroku (小さい魚籠)
- sagiβë (竹で編んだ籠で緒が付いている)
- hotʃa (包丁)
- katana (刀)
- kanatsitsi (金鋸)。baŋgodzitsiともい
う。鍛冶屋などで使う。
- waratsiki tsitsi (木で作ったも
ので, 藁をたたいたり, 畦をたたいたり
するのに用いる)。
- hamma (ハンマー)
- hagama (ごはんを炊く釜)
- tʃa:ʃu:ka (お茶をわかすやかん)
- nabi (鍋)
- kama (鎌)
- kusakarigama (草刈鎌)
- ʔinekarigama (稲刈鎌)
- kamagi (藁で作ったかます)
- to:raŋku (藁で小さく編んだもの)
- kama (かまど)
- kamisori (かみそり)
- kami (甕)
- midzigami (水甕)
- mi sogami (味噌甕)
- sakigami (酒甕)
- ʔambagami (油甕)

- ?aigami (染物を入れる甕で二斗
 がめぐらいの大きさ)
 gufugami (五升甕)
 ?ittugufugami (一斗五升甕)
 nitugami (二斗甕)
 santugami (三斗甕)
 jontugami (四斗甕)
 ?itjikokugami (染物を入れる甕)
 ※徳之島では瓦をやいたことはあるが、甕
 は作らなかったという。
- kana' (匏)
 ?adzın (杵)。一本の丸太のようなもの。
 jamatu ?adzın (餅を搗くような杵)
 ?iri (錐)
 ?iri si ?i:ri (錐で穴をあける)
 k²ui (杭)
 kanikugi (釘)
 garakugi (竹釘)。竹で作った。
 gara は「竹」のことで、孟宗竹のよう
 な大きな竹。小さい竹は de: という。
 普通釣竿に使うもの。
- ki:kugi (くさび)。「木釘」という表現。
 to:gë (鋏)
 to:tsimu (田を耕す鋏)。木に金の刃
 をついだ鋏。
 wu:to:gë (先が尖り、巾が狭い鋏)
 つるはしのような役目をする。
 t²a:tsimata (二つまたの鋏)
 mitsimata (三つまたの鋏)
- mufsu (莫座)
 gumitori (ちりとり)
 gumu (ゴム)
 sau (竿)
 de:muku (材木)
 sa:dziki (杯)
- ?usebatsi (大皿)
 t²u:ɰara (中皿)
 kudzara (小皿)
 sadzi (匙)
 nibu (杓子)
 nibu si midzi sikuri (杓
 子で水を汲む)
 miŋige (飯杓子)
 sirugai (汁杓子)
 se: (ざる)
 dzu: (重箱)
 siki dzu: (供物の重箱)
 dzo:gu (漏斗)
 tsiga (枺)
 masi (枺)
 ?iffumasi (一升枺)
 judari (鋤)
 金で作ったもので、田・畑を耕す。
 sumidora (炭俵)
 suribatsi (すり鉢)
 misusuribatsi (味噌すり鉢)
 sirikugi (すりこぎ)
 seiro (せいろ・蒸籠)
 kufiki (餅・だんごなどをふかしたりする
 せいろのようなもの)
 kejagari (石油燈)
 funadampu (舟ランプ)
 kasadampu (傘ランプ)
 ?andon (行燈、四方に紙を張って風
 を防いだ)
 saun (石鹼)
 dzin (膳)
 dzin mutsi ku: (膳を持って来
 い)
 tarë (盥)

tawafi (たわし)

dʒo:kɪn (雑巾)

kanaguda (脱穀機が出来る前の脱穀用の道具。鉄の棒を櫛の目のように揃え、そこに稲穂をかけて脱穀した)

dakkokki (脱穀機)

tsikue (机)

tsina (網)

waradzina (藁網)

sīrodzina (棕櫚網)。牛の鼻網にも用いるが、牛の鼻がすれて穴が大きくなるのであまりよくない。牛の鼻には阿旦網が最適である。

ʔadanasɪ (阿旦網) 本来は「阿旦の気根」のこと。縄を作ると強い。

tsiruhafi (つるはし)

sokudai (茶台)。「食台」という表現で、食卓一般をも指す。

ti:ri (手入れ)

hanigara (てこ)。鉄や木で作ったもの。

tippo: (鉄砲)

tigjo (天秤棒)

両側から二人でかつぐとき、担い棒を tʔarukatetigjo といい、その担ぎ方を ʔaguragatë という。

一人でかつぐとき、担い棒を tigjo, その担ぎ方を tʔurigmatë という。

担いで売ることを kateʔuri という。

kateri (かつぐ)

haggiri (かごに紐をつけ、紐を額にかけてかごを背負う)

kamiri (頭上運搬をする)。徳之島では昔から頭上運搬をしない。

kami (徳利)

saggo:bin (三合徳利)

domburi (どんぶり鉢)

mutsi (とりもち)

nabi (鍋)

nandʒiki (おこげ)

ʔəjgo (鍋ずみ)。垢は ʔaki という。

nabisi (鍋敷)

tamun (薪)

ʔuduru (枝の薪)

waridamun (割り木)

maruta (丸太)

sīdziri (もえさし)

ʔukiri (炭火)

sīmi (炭)

hai (灰)

dziru (地炉)。火を炊くところで、台所のかまどの周辺全体を指す。

no:giri (鋸)

nokogkufu (おが屑)

numi (鑿)

nuri (糊)

sībjasɪ (灰掻)

sīnatagui (製糖のとき使うかまどの灰掻)

tsikkiri (秤)

saradzikkiri (皿の付いた小さい秤)

kʔindʒo (百斤以上のものをはかる大きい秤)

kʔwamme (貫目)。秤の目方。

kʔimme (斤目)。秤の目方。

haku (箱)

mʔjasɪ (箸)

hasami (鋏)

hatsi (鉢)

sībatsɪ (火鉢)

sinosɪ (火のし)。çinosɪ ともいう。

hari (針)	jumi (弓)
minda (針の穴)	monosafi (物差し)
juju (針金)	tʃuka (湯わかし)
nororo (布)	kibifu (急須)
norohaba (布巾)	dampu (ランプ)
ɸuku (袋)	ɸuja (ランプの火屋)
ɸuta (蓋)	kasa (傘)
nabīnuɸuta (鍋の蓋)	dzimi (芯)
kamīnuɸuta (甕の蓋)	sīkijuʔiri (石油を入れる)
ɸuri (ふるい)	do:soku (ローソク)
ɸurusīki (ふろしき)	tu:ru (ランプ)
ɸuton (ふとん)	tʃawan (茶碗)
dzabuton (座ぶとん)	sīrudʒawan (お汁の碗)
ɸīra (へら)	mīsiʒawan (ごはんの碗)
hoki (箒)	tʃadʒawan (湯のみ)
bo: (棒)	ʃi:mugguki (吸物を入れる碗)
bun (盆)	ʔami (網)
makkwa (枕)	nagiʔami (投網)
tsiga (柁)	ʔambikja (底引き網)
mʔaga (馬鋏)	tsikiʔami (潮の満干を待つ漁法に用いる)
sīrudʒa (木製の整地用のもの)	ʔibiʔami (海老網)
banatʃa (まな板)	tubijuʔami (飛魚をとる網)
tsikigi (マッチ)	sīmiʔami (追込み漁の網)
sino (すみ)	ʃurinʔami (ジャコウをとる網)
ɸiʔutsiʔisi (火打石)	ʔikjabiki (鳥賊釣り)
ɸiʔutsigani (火打金)	sorabiki (さわらなどをとる漁法)
ɸi: (火)。mʔatsi ともいう。	soratsiki (さわらなどを突く古い漁法)。 魚は tugja (銚) で突く。
hara (箕)。穀類などからごみを払い分ける道具。	ʔikjari (錨)
juri (箕)。ふるいのようにゆすって大小をふり分ける道具。	ʔuki (浮標)
muffu (筵)	kajo (櫂)
muffu ʔutsi (筵を作る)	ʔutsigajo (ボート用の櫂)
muggjara (麦わら)	sendo: (船頭)
ja: (矢)	du: (櫓)

ʔju:diru (魚籠)

gju:fin (漁船)

kudakabuni (くり舟)。「久高舟」
という表現。久高は沖縄南部東海岸の
小島で漁が盛んで奄美各地へ行って漁
をした。

katsokkwasibuni (鯉船)「鯉釣船」
という表現。

ʔumuti (舳先)

tomo (艫)

ɸuninuɸu (舟の帆)

hafira (帆柱)

muri (一本銚)

tugja (三本銚)

gju:sa (漁師)

(10) 労働関係の語彙

du:mumi (あんま)。「胴揉み」という表現。

ʔisa (医者)

ʔinikari (稲刈り)

momihosi (粃干し)

ta:ʔuiri (田植え)

ʔuni (畝)。

ʔuni wari (畝をつくる)

makiri (まける)

kuri makirun (これをまける)

ʔabiri (声を出す)

kani (金)

kanī mutsi (金持ち)

kandzakuja (鍛冶屋)

kandzaku fun tju (鍛冶をする人)

turi ʔiri (鶏を射る)

sa:ri dusi (雨が降らない年)

kikindusi (飢饉の年)

kanī (金)

kaniga ne:dan mun saran

(金がないと何もできない)

ʔiɸukudusi (豊年)

janija ʔiɸukudusi naruwa

(来年は豊年になるよ)

kusa (草)

kusa turi (草取り)

kusa kagari (草取り, 手や鎌な
どで田や畑などの草を取ること)

kusakari (草刈り)

kusuri (薬)

numigufuri (飲み薬)

tsikigufuri (つけ薬)

kju:ro: (月給)

ʔukitun (小作している)

ʔukiratantju (小作させている人)

ʔukituntju (小作している人)

murē (乞食)

kodzukaisen (小遣銭)

kumija (米屋)

dzaisan (財産)

muntsukuri (作物)。tsukurimun と
もいう。

sa:ta:sī: (砂糖製造)

sa:ta:sī:dziki (製糖期)旧正
月頃から三月頃まで。

- sa:ta:rsi:nakama (製糖する仲間)
 sekkai (石灰) 砂糖に入れる。
 takimon (炊きもの)
 juiwaku (労働交換)
 junabi (夜なべ)
 sigutu (仕事)
 tʃʰittʃa:haru (早朝から夕方まで家
 に帰らず一日中畑で働くこと)
 watʃamiri (仕度する)
 jateban (畑や家造りで手間賃を取らず
 ただで仕事を手伝うこと)
 hatenusi (畑の主)
 tannusi (田の主)
 ʔukka (借金)
 ʔukkadarakē (借金が多いこと)
 misi (店)
 misijanu nusi (店の主)
 katēʔuri (行商)
 ta:hatē (田畑)
 tassī (しろかきなど田を作ること)
 taniʔurusī (種子蒔き)
 naituri (苗取り)
 ta:ʔuī (田植え)
 ta:ʔuītʃu (田植えの人)
 ta:waku (田起こし)
 se:ku (大工)
 tsimitatigujaʃi (堆肥)
 taniʔurusī (種蒔)
 tamiʔiki (溜池)
 to:ra (俵)
 tsiri (釣り銭)
 kafi (手伝)。kafi si (加勢する)
 ti:naroi (手習い)
 timadori (手間)
 ɕima (暇)
- nai (苗)
 nai kagati ʔuiri (稲の苗を引
 いて植える)
 taninoʃu (苗代)
 garaggara (鳴子)
 tani (種)
 naggi (難儀)
 kun ʃigutuja naggina ʃigutu
 (この仕事は難儀な仕事)
 de: (代)
 kuri ʔikisaga (これいくらか)
 sakunin (農業をする人)
 hatē ʃigutu (畑仕事)
 ta:ʃigutu (田仕事)
 jakunin (役人)
 ʔasibiʃa (遊び屋・飲み屋のこと)
 hatē (畑)
 ※牛をあつかうときのことば
 kju: (左に回れ)
 ʔunja (右に回れ)
 ʃidʒu (後へもどれ)
 ʃui (前進せよ)
 do: (止まれ)
 hare: (払い)
 tʃʰu:tambi (人を頼む, 日雇い)
 kujasi (肥料)
 mʰaŋkē: (馬肥)
 jaginukwē: (山羊の肥)
 ʔusitatigwē: (牛肥)
 turinukuʃu (鳥の糞)
 naggisa: (貧乏)
 naggina kurafi (貧しい暮らし)
 tsikkoi (さとうきび, 稲, 野菜など欠け
 たところに補い植える)
 timbjaʔuī (濃い目に植えたもの)

hagusasi (稲を蒔く植えたもの)
 fusirasi (間引く)
 mugitui (麦蒔)
 mutsitsiki (餅をつく)
 jaduja (宿屋)
 janusi (家主)
 jamasi (山仕事)

hatë figutu (畑仕事)
 k²uggi (罌)
 k²uggitfu (罌をかける人)
 jamasi k²uggi (猪の罌)。猪の
 四足をくくるように仕掛けたもの。
 jama (ねずみをとる罌)

(11) 祭遊関係の語彙

kamisama wugami (祭りの総称, 神様
 拝み)
 ?it²ijadumari (一日中泊りこんで祈る)
 ?a:to:toganafi to:toganafi (祈る
 時の言葉)
 kamisama (神様)
 ju:rei (幽霊)
 t²ummaburi (人魂)
 ?ikimaburi (死の直前, 親しい人に
 現われる)
 maduri となって現われると一ヶ月しないうち
 に死んでしまう。
 kimmun (人をおそったりするカエルのような
 化物)
 gamaora (かっぱ)
 sidama (火魂)
 sidamaga tubi (火魂が飛ぶ)
 ?amëni²ge (雨乞い)
 fu:gusuku (大城), ?agarigusuku
 (東城)などに登って, 蓑や笠をかぶっ
 て行なう。gusukuは現在では公民館に
 なっている。
 tusinujuru (大晦日)

so:gwatsi (正月)
 正月元日は janju:wë (家の祝)をし,
 3日と4日は tofinowai (還暦の祝)5
 日は ha t²ibaru?idgiri (初仕事)を
 し, 16日は sendgomatsuri (先祖祭
 り)をする。
 kadomatsi (門松)
 simenawa (しめなわ)
 wandgitsi (元旦)
 çigan (彼岸)
 wakamidzi (若水)
 正月に hanagumi (花米)を井戸に供
 えてから若水を汲んだ。
 wunagunu fiku (桃の節句)
 jiyganu sekku (端午の節句)
 fikjuma (稲の収穫の祭り, 新米を供える)
 turihami (初穂祭り)
 hama?uri (浜下り, 7, 8月に行なう)
 dzu:guja (十五夜)
 tu:rumi (先祖祭り, 餅を作って墓参りを
 する)
 ?i²phë: (位牌)。?udzisiともいう。
 haka (墓)。

- haka mēri (墓参りをする)
 dzīgoku (地獄)
 gokuraku (極楽)
 so:fiki (葬式)
 sakimuri (婚約)。kutsimusibi ともい
 う。「口結び」という表現。
 ?a:riri (離婚する)
 jumiduri juwē (結婚式)。「嫁取り
 祝い」という表現。
 tudzi muroi (妻をもらう)
 wutu mutsi (夫をもつ)
 kutsimusibi (結納)
 saggō:bin (三合瓶)ともいう。
 nakusami (歌や踊り)
 juwē nakusami (お祝いの歌や
 踊り)
 ?uta (歌)
 wuduri (踊り)
 jidzi (絵)
 jempitsi (鉛筆)
 jempitsinu sinnu wuriti (鉛
 筆の芯が折れた)
 sisirē:sisirēbuku (お手玉)
 sisirē:sisirē ?agiri (お手玉を
 する)
 kakuigoto (かくれんぼ)
 ?oni (鬼)
 kaki (かけごと一般)
 ne:gi (片足とび)
 niwatorikejka (片足とびをしながらぶつ
 かり合う遊び)
 m²a:φui (肩車)
 karuwadza (軽業)
 kudzibiki (籤)
 ti:bui (口笛)
- de:guma (こま・独楽)
 de:guma mo:si (独楽をまわす)
 ?usi?o:si (闘牛)
 sima (角力)
 ni:?utji (抗打ち)。ni:?utsi ともいう。
 抗のようなものを打ち合って遊ぶ。ni:?utji
 ?utsi (抗打ちをして遊ぶ)
 naroi (稽古)。「習う」ということ。
 sibaja naroi (芝居を習う)
 sansiru (三味線)
 sansiru siki (三味線を弾く)
 ?un (海)
 judari (漁り)
 judari si:ga (漁りに行く)
 ?asari (潮干狩)
 gaffu (蛤)
 geinin (芝居する人, 芸人)
 wudurisa: (踊り手)
 dzag ken (じゃんけん)
 古くは ?aiko と言ひ、親指は子指に、
 子指は人差指に、人差指は親指に負け
 るというやり方であった。
 ?uigi (水泳)
 sidziri (硯)
 siberidai (すべり台)
 simi (墨)
 simi siri (墨をする)
 sima (相撲)
 sima turi (相撲をとる)
 ?usidzima (押し角力)
 simadzima (島角力)。昔からの島の角
 力。両方とも帯をつかんでとつくみ合う。
 hati gun (外かけ)
 ?utsi mē:gun (内かけ)
 haḡidzima (投げ角力)

çidari haġġi (左投げ)
migi haġġi (右投げ)
dzika haġġi (引き投げ)
tëku (太鼓)
nitaba (竹馬)
tako (凧)
tako tubasi (凧をとばす)
tsinasiki (綱引き)
川を境に ?agare (東)と ?iri (西)
に分かれて綱引きをする。
dzi: (字)
dzi: kaki (字を書く)
dʒo: (手紙)
hagaki (はがき)
tsinawuduri (縄とび)

miggjo: (人形)
tīdagama (ひなたぼっこ)
φudi (筆)
muġkarisi: (ままごと)
mugkari (人形・おもちゃ)
ma:ru (毬)
maru nagiri (毬を投げる)
midzi (水)
midzi ?asibi (水遊び)
karuta (かるた)
katta: (めんこ)
sīrokuro (竹で表と裏とをかえず遊び)
kakëri (ゆびきり)
?ittugwa: (おはじき)

語彙その2 動詞語彙

(1) 動静の語彙

○ゆれうごき

うごく

mīmajunu tsīratsīra ʔigkjun (眉がびく
びくうごく)

kumunu ʔigkjun (雲がうごく)

kurumaga ʔigkjun (車がうごく)

tʃʔu:nu sorosoro ʔattʃun (人がぞろぞろ
あるく)

du: ʔigkasi (体をうごかす)

ʔisin ma tītsimu sīppatanti ʔigkima
san (石のように一つも引っぱってもうご
きもしない)

kutsi ʔigkasi (口をうごかす)

ʔudzimusīga gudʒagudʒa ʃun (蛆虫がう
ようよしている)

ゆれる

φuni nu ʔigki (舟がゆれる)

kuruma nu ʔigki (車がゆれる)

densegga gutugutu ʔigtʃun (電線がぶら
ぶらゆれる)buragko ga ʔumbuti (ぶらんこがゆれる)
~ ʔumbururiともいう。ja: nu gisiḡisi ʔigkjuri (家がみしみし
ゆれる)ʔinīnuφu:ga nami nisi juritun (稲穂が
波のようにゆれている)

ゆする ゆすぶる

çidza gutugutu φurun (膝をがたがたゆす
る)

buragko ʔumburi (ぶらんこをゆする)

ki: kugi (木をゆする)

ふる

ti: φuri (手を横にふる)

ti: magki (手まねきをする)

kʔubi φuri (首をふる)

hata φuri (旗をふる)

ふるえる

siḡjorowan gatagata ʃun (寒くてがたが
たふるえる)gigiʃirigui (ふるえ声)。人前などで話を
する時のふるえ声。

ゆらぐ

ʔatsikiga bu:bu ʔagatun (湯気がゆらぐ)

sīdarēga kadzi ni ʔigka:tti (すだれが風
にゆらぐ)

(kirikandi nja:run 霧のように見える)

うねる

nami nu ʔuneri (波がうねる)

ʔuneri ga tʃʔuwan (うねりが強い)

くねる

du: kʔuneriga dʒo:dʒi (体のくねりが上手)

だ)

はねる

?usagiga wudurun (兎がはねる)
gattaga tubi (バッタがはねる)
duru: haniti (泥をはねる)

○まえすすみ あとずさり

すすむ

më: ?akki (前をあるく)
më: katji ?akki (前へあるく)。
「すすむ」の意味で用いる。
φuni ga hafiri (舟がはしる)

あとずさり

mari sidziki si: (あとずさりする)

あらわれる

madgumun nu ?idziti (ハブがあらわれる)
tsirana ?arawaritan (顔にあらわれた)

ばれる

?arammunga bariti (嘘がばれる)

ひっこむ

janna: nabi (部屋にひっこむ)。janna:
は「家の中」ということ。
netsu ga sagati (熱がさがる)
ti: kakusi (手をひっこめる)
ti: haggwatsi (手をひっこめる)

かくれる

tsikiganasiga kumuna kakkwiti (月加那
志が雲にかくれる)

wareggwa nu ki:na kakkwiti (子供が木
にかくれる)

kakkwigoto (かくれんぼ)

turi nu kakkwiti (鳥がかくれる)

nusiduga kakkwiti (どろぼうがかくれる)
nja: radi (見えない)

?antju ja bjo:kinu k²udu (あの人は病氣
がひそんでいる)

○いきき

いく

gakko: katji ?ikjun (学校へ行く)。「行
く」の終止形は ?iki, ?ikjuri, ?ikjun が
ある。

wanni ma ?iki (私もいく), wannima
?ikjuri (私もいく)

?ikjami (行かないか), ?ikan (行かない)

kakami (書かないか), kakan (書かない)

むかう

kamedzi katsi ?iki (亀津へ行く)。「へ」
は katji でもよい。

さる

nagariti ?iki (故郷をさる, 流れて行く)
?uri ga ?idziti kara dërdzi nagi (あな
たが出たら大変だ)

?antjuja ?utiragkumo katji ?utitan (あ
の人は遠いところへ行った)

それる

?u: kadzija maburatti kan kuggoni juk-
witi ?idgan (台風は幸いにここへ来ない)

でよけて行った)
 jumi nu mato na t'itsi ma ?ataran (弓
 的に一つも当らない)

 はなれる
 jakara ?idgiri (家からでる)
 turinu si:kara hanaritan (巢からはなれ
 た)
 ?ujakkwa wakari wakari kuratʃun (親
 子をはなればなれにくらす)
 φuni ga ?idgiti ?idgan (舟がでていった)
 jumi ?i:tan (弓を射った)

とおのく
 jengga tu:kunatan (縁が遠くなった)

 どく
 ?uṅkara jukwiri (そこからどいてくれ)
 jisi no:si (椅子をどける)

 へだたる
 ?antʃuṅkajatuja tu:ka tʃuṅkja (あの人た
 ちとはへだたりがある)
 jendo nasini tsikiai (遠慮なしにつきあう)

くる
 tʃu: nu kjun (人がくる)
 ta: ?ui ?u:ri nati (田植時期になる)

つく
 φunr ga minato katsi ?ittsi (舟が港に
 つく)
 dʒo: ga tʃan (手紙が来た)。dʒo: は「状」
 に対応する語。
 ja: katʃi jo:jaku tumē:ti tsī: (家にと

どりつく)

 くつつく
 mutsi nu ti:na tsittsi (餅が手にくつつ
 く)
 kʷanu juggamarahain ?ujaka hanariran
 (子供がうるさく親からはなれない)

 ちかづく
 φuninu tsikadzitsitʃan (舟がちかづいてき
 きた)
 fo:gwatsi mē: nati tsī (正月が近づい
 てくる)

よる
 ?anda katsi jukwiri (道端による)
 kairija misi katsi jutī (帰りは店による)
 natsi nu musiga ?ittsi kjun (夏の虫が入
 ってくる)
 tsira ?utsi (顔で相手に合図する、物を言
 わないで表情で相手に意を伝える)
 mi: ?utsi は「まばたき」。
 tʃunu sibe katsi jutī tsī (人の側による)

おしよせる
 nami nu tsiki ?agiri (波がおしよせる)
 tʃu:nu ?use ?use si: (人がおしよせる)

せまる
 matsiri fo:gwatsi ga tsikjamiti tʃan (祭
 りや正月が近づいてくる)
 φento: si: (返事をする)

いらっしゃる
 ?isaga ?amakara mʷoirun (医者がむこう

からいらっしゃる)

m^o:ruri, m^o:ru ともいう。

kunna m^o:ru (ここにいらっしゃる)

うかがう

?jakkja: ja:katsi kjusa (お前たちの家
に行くよ)

?urita: ja:katsi kē:rusa (あなたの家に
参ります)

tami:tsi njun (様子をうかがう)

かけつける

madgumun ni k²watti sigun bjo:in ni ?i-
dgan (ハブに喰われてすぐ病院にいった)

もどる

mutunu mitsi mari muduri si: (もとの道
までもどる)

ja: katsi kaiti (家にもどる)

ja: ni ga (家を見に)

かえる

ja: katsi kē:ri (家にかえる)

sima katsi muduri (故郷へかえる)

ひきかえす

t²u: tu muduri (途中でひきかえす)

ひきあげる

jamatu katsi siki ?agiri (本土へひきあ
げる)

sima na kurasī (故郷でくらす)

まわる

kadzī guruma mawasi (風車をまわす)

?isuga:in kirikiri mai (忙しくて目がまわ
る)

?undo:dgo: mawari (運動場をまわる)

めぐる

dgento: mawari (全島まわり)。徳之島全
域をまわること。昔から修学旅行のように3
泊4日で島一周をして各学校を見学した。

jaggurui burokku tsimi (家のまわりをブ
ロックで積む)

かよう

?isa gai (病院にかよう)

gakko: ?akki (学校にかよう)

ちる

t²unu barabara kairi (人がちっていく)

hana nu hantiti (花がちる)

ju: mi (横目)

siminu tsiriri (墨がちる)

あつまる

m²atsi nukumi (火にあたたまる)

さまよう

mitsi madzige (道にまよう)

うろつく

turinsi nu girui njaonu ma:tsi ?att²un
(鳥の巣のまわりを猫がうろつく)

ほつつきあるく

muranna: ?akki (村の中をあるく)

ただよう

φuni nu ?uttsagiratti (舟がただよう)
hana nu nioi nu furi (花のにおいがた
だよう)

のぼる

?inoxde: nuburi (井之川岳にのぼる)
ki: nuburi (木にのぼる)
jansira nuburi (屋根にのぼる)
sira: nuburi (坂をのぼる)

のる

m'a: nuri (馬にのる)
kuruma na nuri (車にのる)
φuni na nuri (舟にのる)
?atsitsigi na nuburi (踏台にのぼる)

あがる

nikai katsi nuburi (二階にあがる)
dzafiki katfi nuburi (座敷にあがる)
?un ?iki ja jamiti haru ?iki si: (漁師
はやめて陸にあがる)
?itjinensei ?iki (一年生にあがる)
ko:ko: sotsugjo: si: (高校卒業する)
sigutu ?ujagi (仕事があがる)
nidannu ?agati (値段があがる)
nitsi nu tarha (熱が高い)
m'atsi nu hanaga nja:run (火の手があが
る)
kiibusiga tattsii (煙があがる)

やむ

?ami ga hariti (雨がやむ)
wata jaminu notii (腹のいたみがやむ)

やめる

jukkwi:iti sigutu jamiri (日がくれて
仕事をやめる)

かかげる

cinomaru nu hata tatiri (日の丸の旗を
かかげる)

うく

φuni nu ?utfun (舟がうく)
kumu nu tattfun (雲がういている)

たちい

ある
kanii mutsi (金持ち)
kanii nu ?an (金がある)
?umatsiriga ?an (お祭りがある)

いる

?ama ga wun (おふくろがいる)
?inu ga wun (犬がいる)

たつ

tj?unu tattfuri (人がたっている)
kibusii ga tattfuri (煙がたっている)
?utu narasi (音をたてる)
φuru wakasi (風呂をたてる)
ja: tatiri (家をたてる)

すわる

tatami nu ?uina jiri (畳の上にすわる)

かがむ

kusi ?utsigki (腰をかがめる)

つまさきだち

ta:sagja si: (爪先立ちをする)

ひきたつ

k[?]innu ?iru nu kjuraha (着物の色がひきたつ)

ひきたてる

dʒunsanu warumun katsimiti ?idʒan (巡査が悪者をつかまえていった)

すべる

nambu mitsi nati kuge:tan (すべっこい道でころんだ)。~ namburi (~すべる)

はう

kwagwa: nu ho:i ?idʒatsi (赤ちゃんがはい出した)

madʒimugga ?idʒiti tsi (ハブが出てくる)

tassaboi si:tsi kiti (四つんばいになってきた)

あるく

ʒumata ?akki (大股であるく)

いそぐ

gakko: katsi ?isugati hasiri (学校へいそいでいく)

?isugati ?i:ri (急いでおきる)

はしる

?undo:kai na hafiri (運動会ではしる)

hafiri kurabi (走り競争)

かける

m[?]a: nu tudi ?idʒun (馬がかかる)

hafirikurabi (かけっこ)

とぶ

turi nu tubi (鳥がとぶ)

ʒuju nu ?agari (しぶきがとぶ)

およぐ

?ju: nu ?i:gi (魚がおよぐ)

ころがる

ma:ru nu mo:ri (球がころがる)

?inu ga kugeri (犬がころがる)

ころぶ

mitsi nu ?agari sagarisi kugeti (でこぼこ道でころぶ)

たおれる

ki: nu takkugeti (木がたおれる)

つまづく

?isi kittaguti (石につまづく)

ひっくりかえる

ʒuni ga ʒikkurigeti (舟がひっくりかえる)

くじく

sini k[?]undʒigë:ratsi (すねをくじいた)

よろける

?isi k[?]iti kugërugëa (石につまずいてよろける)。~ kugeti (~たおれた)

よろめく

sakī nudī kugëra maggëra (酒をのんで
よろめいている)

こもる

kibusīnu phutsīmotī (煙がこもる)
ja: kumotī (家にこもる)

うまる

mugkarimun ga duru ga tsittjfun (おも
ちゃが泥まみれになる)
çirobaga tju ippai (広場が人でうまる)

とまる

tumtan (とまった)
midzīnu nagarī ga tumatī (水の流れがと
まる)
nagari tsīgkiri (流れをせきとめる)
basu ga tomari (バスがとまる)
phuri ga tumatī (ふるえがとまる)
midzī ga tumatī (水道がとまる)

ながれる

ko:ga nagariri (川がながれる)
ki nu nagariti tsī (木が流れてくる)
?ukkan kara ?asiga tarīru (額から汗が
流れる)

そそぐ

ko: ga ?un katsī nagariti (川が海へなが
れる)

もる

tju:ka: nu midzī mururi (やかんから水
がもる)

ja:nu mururi (家がもる)

ふきでる

phunsui kara midzīnu phukidziru (填水か
ら水がふきでる)
tsi: ga phukidziri (血がふきでる)

しみる

kabinna ?inniku nu tsikatī (紙に印にく
がつく)
kusiri tsikitantu sirakijami sun (薬を
つけたからしみる)
sigjuro midzī ha: tsikkjagiruri (冷水
が齒にしみる)

ぬれる

?amī ni sīttatī (雨にぬれる)

ひたる

midzī na tsīggatī (水にひたる)
ja: nu midzī na tsīggatī (家が水びたし
になる)

つかる

kubi ntana ju: na tsikatī (首まで湯に
つかる)
(kamidzi ntan ?iki 亀津まで行く)
(?ino: kara kamidzi ntana ?attsī 井之
川から亀津まで歩いた)

さす

?amba ?idiri (油をさす)
min kufuri tsikiri (眼薬をさす)

つぐ

sa:dziki na sakitsigi (杯に酒をつぐ)

こぼす

tʃa: haŋkuratsi (茶をこぼす)
 sata tsiratsi (砂糖をこぼす)
 misi haŋkuratsi (ごはんをこぼす)
 nada nu ?idziti (涙をこぼす)
 mugku ?i: (愚痴をこぼす)

あふれる

baketsinu midziga ?ambiruri (バケツの水があふれる)
 ko: nu midzi ga ?ambiti (川の水があふれる)
 nada nu ?idziti (涙があふれる)

○でいり

はいる

ja: katsi ?iri (家にはいる)
 kwai katsi ?iri (会にはいる)
 mintsiri ?i: ti (目にごみはいる)
 mintsiri は「目に入ったごみ」のこと。

いれる

ɸukuru na ?iri (袋にいれる)
 ɸutsukun na ?iri (ふとこにいれる)
 tʃa: sasi (茶をいれる)
 ko:çi: na sa:ta: ?idiri (コーヒーに砂糖をいれる)
 tʃu:ka: na midzi ?idiri (やかんに水をいれる)
 çibatsi na mʔatsi ?idiri (火鉢に火をいれる)

suitʃi ?iri (スイッチをいれる)

でる

situ katsi ?idziri (外へでる)
 ja: ?idziri (家を出る)
 gakkō katsi ?iki (学校へでる)
 gakkō: ?owari (学校を終わる)
 nikun nu ?idziri (ニキビが出る)
 se: tsikkju (咳が出る)。~ tsikkjuri
 ともいう。
 netsi nu ?idziti (熱が出る)
 nada nu ?idziruri (涙が出る)
 midzi ga ?idziru (水が出る)
 tsikiga ?usagari (月が出る)
 mi: kara mʔatsinu ?idzirun (目から火が出る)

だす

kani ?idzasi (金をだす)
 siba nugidzasi (舌をだす)
 ko:rinu na: kara kʔin ?idzasi (行李の中から着物をだす)
 dʒo: ?idzasi (手紙をだす)

さしだす

bun nuwari (盆をさしだす)
 ti: ?idzasi (手をさしだす)
 ti: nuwari (手をだす)。「手をさしだす」
 意にも、「人をなぐる」意にも用いられる。
 ti: sirugiri (手をひろげる)

つれだち

ko:i mun si: ga so:ti ?iki (買物につれていく)
 ?in ?asibasiga so:ti ?iki (犬を運動につ

れていく)

ひきいる

sensei ga seito so:ti ʔidgun (先生が生徒をひきいていく)

やる

ware:n tsikoi (子供をつかいにやる)

kanī kwīranī (小遣をやる)

muḡkama sī (餌をやる)

よこす

hendgi mutasī (返事をよこす)

maru nagī tsikami nagīri (毬を投げてよこす)

おくる

kodzutsīmi ʔukuri (小包をおくる)

ʔukurimun ſita (贈物をした)

tʃu miʔukuri (人を見送る)

とどける

mja:gi hagi (おみやげをとどける)

○もちほこび

おぶう

k^ʔwa: haggiri (子供をおぶう)

おう

ni: haggiri (荷をおう)

せおう

ni: haggiri (荷をせおう)

かつぐ

ni: katēri (荷をかつぐ)。棒でかつぐこと。

to:ra katēri (俵をかつぐ)

「肩」にじかにかつぐことは maḡgatē という。

tempin sī katēri (天秤棒でかつぐ)

二人でかつぐことは tigjo: gatē という。

もつ

ni: mutsī (荷をもつ)

ni: tsīmmiruri (荷をさげる)。tsīmmiriともいう。

kanī mutsī (金をもつ)

ja:wari (家庭をもつ)。分家して家庭をもつ。

さげる

kaban tsīmmiri (カバンをさげる)

tʃo:tsin mutsī (提灯をさげる)

kusī na tonogē sagiri (腰に手拭をさげる)

kusī na kama sasi (腰に鎌をさす)

はこぶ

nitʃa mutsī (土をはこぶ)

mun haggiruri (額に紐をかけてかごを背負う)。~ haggiri (~背負う)

のせる

mun kamīri (物を頭にのせてはこぶ)

ni: tsīmi (荷をのせる)

(2) 変容の語彙

わる

garasi tsi ki wati (ガラスをわる)

tamun wari (薪をわる)

gara wari (竹をわる)

φuisendama wari (風船をわる)

tamagu wati (卵をわる)

tjadzawan wati (湯のみをわる)

ʃo:tʃu: ʔusumiri (焼酎を水でわる)

くたく

ʔisi tsikkiwari (岩をくたく)

korri wari (氷をくたく)

mitʃa tsiki siŋgi (土を細くくたく)

つぶす

ʔitʃubi sirisŋgi (莓をつぶす)

musi sirisŋgi (虫をつぶす)

nikun siŋgi (ニキビをつぶす)

kisinu kʼundeti ja: ʔusitsikiratti (山がくずれて家がつぶれた)。kisi は「岸」のことで、崖などを含んだものをいう。海岸ではない。

こわす

ja: nu jatsiriti (家がこわれる)

tokei nu jaburiti (時計がこわれる)

kagi nu jaburiti (鍵がこわれる)

kuruma nu φuruku nati ʔiŋkaggo: natan (車が古くなってうごかなくなった)

hana ʔiki nu wariti (花瓶がわれた)

haku tsikiwati (箱をこわす)

du: kuwatsi (体をこわす)

karada nu jairatsi (体が弱る)

wata jambiratsi (おなかをこわす)。

~ jambira ʃunともいう。

くずす

kisi nu kʼunditi (崖がくずれる)

jama nu kʼunditi (山がくずれる)

so:muri nu kʼunditi (下へもるような穴がくずれる)

tsʼiŋgjo: nu kʼunditi (井戸がくずれる)

ki: tsimigi nu kʼunditi (積木がくずれる)

ʔwa: tʃikiga jambiti (天気がかくずれる)

やぶる

ʃo:dʒiga jariti (障子がやぶれる)

φukuroga jariti (袋がやぶれる)

kʼin nu jariti (着物がやぶれる)

nui me kara jariti (縫目からやぶれる)

ʔisi gaki nu kʼunditi (石垣がくずれる)

kʼo:ro kʼundatsi (牢をやぶる)。kʼo:ro は留置場、牢のこと。

pʼi:jo ga siditi (ひなが孵化する)

さく

naru kamisama nu hantiti ki: tsikisati (雷がおちて木をさいた)

ʔami ga φuradan taja muru wariti (雨が降らずに田が皆われた)

noro tsinsaki (布をさく)

ʔikja saki (するめをさく)

ʔunagi ʔatsikoi (鰻をさく)

ʔiju ʔatsikoi (魚を三枚にさく)

かく
 tʃadʒawan nu hatakī:ruri (湯呑がかける)
 sa:ki nu hanu kē:ti (櫛の齒がかける)
 櫛を拾うと病気になって苦勞すると言われる。
 suri nu haga hagutsi ʃun (剃刃の刃がこぼれる)
 katsobusi ɸi:gi (鏝節をけずる)
 namaku natī kiriran (刃ものがなまって切れなくなる)

おる
 ʔuduru tsinwuri (枯枝をおる)
 harinu wuriti (針がおれる)
 kasa kʷui (傘をおりたむ)
 kabi si turi tsikuri (紙で鷄をつくる)
 千羽鶴をつくる意。

わける
 mandzo tsin wēri (お菓子を二つに分ける)
 hambunwakē ʃun (山わけにする)
 tʃu: wari ʔatiri (人数をわりあてる)

きる
 tamana u kumakaku kiri (きゃべつを細かくきる)
 de:kuni namasi kiri (大根をきざむ)
 ʔute: ʔiju nu ku:tasiga ʔitonu kiriti
 (大きい魚が釣れたが糸がきれて)
 ʔiju nu ʔami tsī: ɸugatsi (魚が網をきる)
 hasami si ʔitʃu kitī (鋏で糸をきる)
 ha si kwikkiri (齒で糸をきる)
 gumu nubasi:gsiko nubatʃan tukja kiritan
 (ゴムをのばしているうちにきれた)
 tsī mi kʷiri (爪をきる)

karadzi tsikjamiti kwiri (髪を短くしてくれ)
 jasē: se:na ʔi:ti ko:ra kʷiri (野菜をざるに入れてかわかせ)
 kadʒi ɸkisidi ʔiki kirirugē:ti (水にもぐって息がきれる)
 ʔi:bu kʷatsi (指をつめる)
 kubi kiri (首をきる)

たつ
 noro tatsi (布をたつ)

ちぎる
 hana tsipkiri (花をちぎる)
 si:gjoroan minnu kiriruggane si (寒くて耳がちぎれそうだ)
 sudī jariratsi (袖をちぎる)
 haorino ɸimo: sikkitsi (羽織の紐をちぎる)

きざむ
 seggiri ʔurusī si (千切おろしをする)
 ta:ku kiri (たばこをきざむ)

けずる
 jempitsu tugi (鉛筆をけずる)
 kʷui tugi (抗をけずる)
 hara kana si si:agiri (柱を鉋でしあげる)
 katsibusī tsiki (鏝節をけずる)

かる
 karadzi kiri (髪をきる)
 kusa kari (草をかる)
 ʔini kari (稲をかる)
 ʔueki kari (植木をかる)

sibaφu kari (芝生をかる)

そる

sīgi furi (髯をそる)

mimajunu sa: furi (眉の下をそる)

むしる

hatē nu kusa kagarun (畑の草をむしる)

karadzī sukki (髪をむしる)。sukkjuri,
sukkattīともいう。

turi nu hani nugi (鳥の羽をむしる)

つむ もぐ

kī:ha tsīpkiri (木の葉をつむ)

hana tsīpkiri (花をつむ)

mamī tsīpkiri (枝豆をもぎとる)

ひく

maruta watsī hara nasī (丸太を鋸でひいて柱にする)

no: girisī sītsī kī: kugerasī (鋸でひいて木をたおす)

おろす

?iju mikiri kiri (魚を三切にきる)

?iju nu ?ukkan kitsī hannagiri (魚の頭をきってなげすてる)

derkuni ?urusī (大根をおろす)

hansīn firi (芋をする)

hansīn kudzī (さつまいものくず)

hansīn kudzī nu kasī (さつまいものかす)豚, 牛の餌にした。

sītītsī n k⁷udzī (蘇鉄のくず)。

~ kasī (~のかす)。味噌に入れたり, 餅に入れたりした)

fo:ga firi (しょうがをする)

goma firi (ごまをする)

jeda kiri ?utusī (枝を切りおとす)

wugi kasadzī wuginsura kiri (きびの葉をとり, きびの先をきる)

karadzī kiri (髪をきる)。~ tsīkjamiriは全部きりおとしてしまうこと。

はねる

kubi kiritosī (首をきる)

jusari nu sibaja ja kisa sīdī (夜の芝居はさっきはねた)

そぐ

karadzī sa:ki (髪をそぐ)。~ hana tsīmi (~の先をきる)

gombo: φīgun (牛蒡をきる)

とぐ

ho: tja: tugi (庖丁をとぐ)

みがく

do:gu migaki (道具をみがく)

nabīnu φīggu ?utusī (鍋のへぐろをおとす)

nandziki ?utusī (おこげをおとす)

kudzī migaki (靴をみがく)

ha: migaki (歯をみがく)

ぬく

firagī nugi (白髪をぬく)

kugi nugi (釘をぬく)

wuī nu sukuga nugitī (桶の底がぬける)

tendzo: ga hantiti (天井がぬける)

むく

kuninnu ko: hagi (みかんの皮をむく)
 hansinnu ko: hagi (芋の皮をむく)
 riggo nu ko: hagi (リンゴの皮をむく)
 mamī niki (豆をむく)。～ nikjun,
 ～ nikjuriともいう。
 jamatu suginu ko: hagi (杉の皮をむく)
 ?iju nu ko: hagi (魚の皮をむく)
 ?iju nu ?ikki hagi (魚のうろこをはぐ)
 gassu nu kara tsin wari (貝の殻をむく)
 tida nu tʃu:han ko: hagiri (日が強くて
 皮がむける)
 hakkugēti ʃidza tsikki hadzi (転んで膝
 をすりむく)
 ?innu kutsi hatiti tʃan (犬が歯をむきだ
 す)

はぐ

?u:kadi si jane ʃukituba hatti (台風
 で屋根ふきとばされて)
 kasagu kʔu:ratsi (かさぶたをはがした)
 tsimi hagariti (爪がはがれた)
 tsimi tsikki sindza (爪をうった)
 ?udunu ko: hagasī (ふとんの皮をはがす)
 pen ga hagiti (ペンキがはげた)
 ?udu karagitan (ふとんをはぎとった)
 nusidu (おいはぎ)

まがる

hari nu magati (針がまがる)
 kugi ga magati (釘がまがる)
 ʃidza magiti (膝をまげる)

ためる

gara sikitamiri (竹をためる)

たわむ

jida ga taturi (枝がたわむ)

しなう

gara nu kadī si takkugēti (竹が風でし
 なう)

ねじれる

hari gani nu magati (針金がねじれる)

ひねる

kubi mawasi (首をひねる)
 ti: saniri (腕をひねる)
 dzagutsi ?ē:ri (蛇口をひねる)

つねる

mumu tsigkiri saniratti (腿をつまんでひ
 ねられた)

かたむく

kami nu kugēti (瓶がかたむく)

へこむ

mi: nu sikkudun (目がへこむ)
 wata nu karituri (腹がへこむ)

くぼむ

mitsi nu kubuduri (道がくぼんでいる)

ほる

tsiggjo: ʃuri (井戸をほる)
 nindzu ʃuri (溝をほる)
 hansin ʃuri (芋をほる)
 ta: ʃuri (田をつくる)
 han ʃuri (印鑑をほる)

kaina na handɣikja ɸuti ʔari (腕にいれ
ずみをほる)

かれる

kusa kī nu karitī (草木がかれる)

しおれる

hanaga karitī kjuri (花がしおれてくる)
jasai ga sirɛʃuri (野菜が干魃でかれる)

しぼむ

hana nu kʔu:run (花がしぼむ)

つぼむ

kasa kʔu:run (傘をつぼめる)

しなびる

de:kuni ga ko:ratsan (大根がしなびる)

やせる

du: nu to:riri (体がやせる)。to:riruri
ともいう。

to:rituri (やせている)

to:ritʃu (やせた人)

かじかむ

tī ga kwa:turi (手がかじかんでいる)。
kwa:ruri (かじかむ)

のばす

gumu sīppari (ゴムをのばす)

ふくれる

mutsī ga ɸukkwagati (餅がふくれる)
ɸu:sen ɸukkwagati (風船をふくらます)

kokomuri nu ʔidɣitun (つぼみがでている)

kokomuri は花のつぼみ一般にいう。

wata nu ʔidɣitun (腹がでている)

はれる

tsira nu ʔukabari (顔がはれる)

tīʔasi ga ɸukkwəri (手足がはれる)

nibutu ga hariri (おできがはれる)

mī: ga ɸukkwəturi (目がはれる)

harimun (はれもの)。ɸukkwiri (みみず
ばれ)

ふとる

konogoro ja kwɛ:tī (この頃はふとってい
る)

ʔuekī nu ɸɛ:ku natī (植木がふとる)

はる

wata ɸɛa (腹がはる)

tento hari (テントをはる)

sasīn hari (写真をはる)

ko:jaku hari (こうやくをはる)

むくむ

sīni nu ɸukkwiri (足がむくむ)

tsira nu ʔukabari (顔がむくむ)

ふやける

tī nu sīdɣun (手がふやける)

sīni nu sīdɣun (足がふやける)。sīdzikjun
sīdzikjuri ともいう。

こえる

nitʃa nu kwɛ:tun (土がこえている)

むくれる

tsira ɸukkwiːtun (顔がむくれている)

うむ

nibutu nu ʔumjun (膿がうむ)。ʔudun
(うんでいる)

kunin nu ʔudun (みかんがうんでいる)

はらむ

jumī ga kaorowa (嫁がはらんでいる)

kaorowa は人間だけに用いられる。

kunu ʔiju ja harami ʔiju (この魚ははら
み魚である)

ʔusi nu haraduri (牛がはらんでいる)

つかれる

kju:ja darīti (今日はつかれる)

(3) 着用の語彙

きる

jukata kiri (ゆかたをきる)

kʔin kiri (着物をきる)

はく

hakama haki (袴をはく)

tabi sīgiri (足袋をはく)

かける

ʔudu kambī (ふとんをかける)

mīgani kēri (眼鏡をかける)

mīgani sīgiri (水中めがねをかける)

denwa kē:ri (電話をかける)

はめる

tībukuro sīgiri (手袋をはめる)

ʔudidukei maki (腕時計をはめる)

ʔwi:bugani sīgiri (指輪をはめる)

かぶる

bo:sī kambī (帽子をかぶる)

kasa sasi (傘をさす)

meg kaburi (お面をかぶる)。徳之島井之
川ではお面をかぶらない。tsīggo midzī kambī (井戸の水をかぶる)
madē barē (他人の借金をかぶる)

しめる

kʔju:bi sī (帯をしめる)

kʔju:bi kʔuggi (帯をしめる)

ʔukkan kʔuggi sī: (はちまきをする)

nekutai kʔuggi (ネクタイをしめる)

sanagi simiri (ふんどしをしめる)

つける

botan tsikiri (ボタンをつける)

jadu na kagi tsikiri (戸に鍵をつける)

karadzī na ʔamba tsikiri (頭に油をつけ
る)kidzī na kuʔuri tsikiri (傷口に薬をつけ
る)

ʔosiroi nuri (おしろいをつける)

bīni tsikiri (口紅をつける)

ʔin nu kusari tsikiri (犬の鎖をつける)

さす

gi: ja sasi (かんざしをさす)
 haribuku na hari safi (針さしに針をさす)
 ki: nu ?ittsi (木のとげ)。バラなどのと
 げ。

?ida nu ?ittsi (板のとげ)
 ?jun nigi (魚のとげ・小骨)

しく

muffu siki (むしろをしく)
 dzabuton siki (座ぶとんをしく)
 ?udu siki (ふとんをしく)
 ?arasina siki (砂利をしく)

くるむ

ware ggwa tsimbi (赤ちゃんをくるむ)
 ?an tsimbi (あんこをくるむ)

まとう

kjuragin kiri (晴着をまとう)
 mi?gin (新しい着物)

むすぶ

sabanu hanawu tatiri (草履の紐をむすぶ)
 kudzi ?imo k²umbi (靴紐をむすぶ)
 ~ k²uggi ともいう。
 haori nu wu: k²uggi (羽織の紐をむすぶ)
 ?obidzi mi simiri (帯をしめる)
 ti: tsigjosa (手をむすぶ)
 sini k²uggi (足をくびる)
 ti: k²uggi (手をくびる)

つなぐ

?itsu: tsinagi (糸をつなぐ)
 ?uni k²uggi (舟をつなぐ)

ti: tsigjosa (手をつなぐ)

?in k²uggi (犬をつなぐ)

ki: tsigi (木をつぐ)

すげる

?andza nu hanawu tatiri (下駄の鼻緒を
 すげる)
 kama nu ji: sigiri (鎌の柄をすげかえる)

つかむ

?ju: miggı (魚をつかむ)
 ?ama ga mairi na sagari (母のまわりに
 すがる)
 juggamara:n (うるさい)

つかまえる

nusi du miggı (どろぼうをつかまえる)
 mjau nu nidzimi tsikadan (猫がねずみを
 つかまえる)

ゆう

karadzi jui (髪をゆう)

ゆわえる

nidzi kuri si: (荷物をゆわえる)

たばねる

kusa k²uggi (草をたばねる)。k²uggjun,
 k²uggjuri ともいう。
 tamun k²uggi (薪をたばねる)
 karadzi k²uggi (髪をたばねる)

つつむ

mandzu tsimbi (お菓子をつつむ)
 ts²umbjun, ts²umbjuri ともいう。

ʔutsikui si tsimbi (ふろしきでつつむ)	かたづける
たたむ	sīgjutu simatsi (仕事をかたづける)
ʔutsikui taguri (ふろしきをたたむ)	ja: ʃo:dzī si: (家をかたづける)
kʔin taguri (着物をたたむ)	しまう
kabi taguri (紙をたたむ)	do:gu katatsikiri (道具をしまう)
kasa kʔui (傘をたたむ)	

(4) 火熱の語彙

もえる	hai (灰) haidzimi (灰ずみ)
mʔatsinu mē:ri (火がもえる)	
kunu tamun ja ju: mē:run (この薪はよ くもえる)	あぶる
gumi mē:ʃi (ごみをもやす)	ʔikja ʔaburi (するめをあぶる)
kī:ha mē:ʃi (落葉をもやす)	nori ʔaburi (海苔をあぶる)
kundu nu kʔwadzi ʃi ja:muru mē:tʃan (こんどの火事で家をみなもやしてしまった)	tī: ko:si (手をあぶる)
たく	やく
ʔuban si: (ご飯をたく)	jama jaki (山をやく)
kaiban si: (お粥をたく)	kʔwadzi (火事)
hansin ni: (芋をにる)	sumi jaki (炭やき)
ʔuro wakasi (風呂をたく)	tsibu jaki (壺やき)
つける	tidasī hada jaki (日光で肌をやく)
taku na mʔatsi tsikiri (たばこに火をつけ る)	jatʃu jaki (炙をすえる)
do:soku tsikiri (ローソクをつける)	ʔju: ko:si (魚をやく)
おこす	mutsi jaki (餅をやく)
rentan ʔukusi (練炭をおこす)	niku jaki (肉をやく)
sīdziri (もえさし)	kuga jaki (卵をやく)
dzīrudzimi (すみ)	hansin jaki (さつまいもをやく)
ʔukiri (すみび)	jaki bansin (やき芋)
	nigiri mīsī (おにぎり)
	karadadzu: jatʃan (全身をやいた)
	jakedo (やけど)
	mʔatsi nu tsu:hatsi ʔiju jeggosi (火が 強くて魚がこげる)

misī nu nandgiki jakitsikiti (ご飯がこ
げた)

midzi nu sīsī nabī jakiwati (水がなく
なって鍋をこがした)

?ukiri hantutsī tatami jaki φugatsī (
すみ火で畳をこがした)

くべる

tamun sasīri k[?]umi (薪をどんでんくべる)

あげる

tempura jaki (てんぷらあげる)

いためる

tamana ?ikki (きゃべついためる)

いる

mami ?ikki (豆をいる)

guma ?ikki (ごまをいる)

わかす

ju: wakasi (湯をわかす)

tʃa: wakasi (お茶をわかす)

φuru wakasi (風呂をわかす)

sīru wasī (汁をわかす)

ゆでる

tamago judiri (卵をゆでる)

?ibi judiri (海老をゆでる)

ゆがく

?ikja judiri (烏賊をゆがく)

de:kun judiri (大根をゆがく)

?a:ʔin ni: (里芋をにる)

せんじる

kufuri sīdzīri (菓をせんじる)

たぎる

ju: nu wakitʃigiri (湯がたぎる)

にる

?iju wa:ʃi (魚をにる)

mami ni: (豆をにる)

sīru ?atsīrasi (汁をあたためる)

sīru taggi sīratsī (汁がにつまる)

むす

mamami misī kafiki (赤飯をむす)

mamami (あずき) kafiki (ふかしたごはん)

ふかす

mandzo: jaki (まんじゅうふかす)

むれる

?uban ?insi (ご飯をむらす)

kju: wa ?uturusika ?atsian (今日はむれ
るように暑い)

くすぶる

gumi nu φutsimoti mē:ran (ごみがくすぶ
ってもえない)

けむる

tamun ga mē:ran (薪がもえない)

あたる

mʔatsī nukumi (火にあたる)

?atsīratsī kami (あたためてたべる)

あたためる

bento: nukumiri (べんとうあたためる)

(5) 飲食の語彙

たべる

?aʃi ja so:ba kadi (昼食はそばをたべる)

kami, kamjun, kamjuriともいう。

くう

?uban kadi (飯をくう)

gaddʒan ni k^ʔwatti (蚊にくわれた)

saki numi (酒をのむ)

?uʃi ga kusa kadu (牛が草をくっている)

niʒan (寝噛み)

のむ

midzi numi (水をのむ)

kuʃuri numi (薬をのむ)

saki numi (酒をのむ)

suikwan tani kadi (西瓜のたねをのみこむ)

taku ʃuki (たばこをのむ)。ʃukjun,

ʃukjuriともいう。

?ju: nu mundani numik^ʔudan (魚が餌をのみこむ)

かむ

gamu ka:siŋgi (ガムをかむ)

?usisi ka:siŋgi (お肉をかむ)

jagi ga kusa kami (山羊が草をかんでい
る)

kaduri (かんでいる)

?uban ka:siŋgjuri (ご飯をよくかむ)

?inni k^ʔwatti (犬にかまれた)

madzi munni k^ʔwatti (ハブにくわれた)

habu ?atari siともいう。

かじる

nama bansin kami (生芋をかじる)

niʒin nu hansin kadijan (ねずみが芋をか
じる)

?ujanu sini kadgiri (親のすねをかじる)

つつく

turiga mun siroi (鳥が餌をつつく)

?ujaduri ga k^ʔwakkui (親鶏がつつきはな
す)

なめる

?amedama simbi (飴をなめる)

sata nabiri (砂糖をなめる)

すう

tsi: kami (乳をすう)

?u: ?iki ʃu:ri (大息をすう)

すする

kaiban kami (お粥をすする)

hana mumi (鼻をすする)

ふくむ

midzi kukumi (口に水をふくむ)

?amidama simbi (飴玉をなめる)

simbjun, simbjuri, k^ʔumjuriともいう。

語彙その3 形容詞語彙

- naga:ha (長い) naga:hanともいう。
 tē:taka ?afi (長足)
 nagati (長手, だろぼう)
 naga?ami (長雨)
 nagajiri (長居)
 nagajami (長痛)
 naga?iki (長生)
 fu: ?iki (大息)
 tsikja:ha (短い)
 jempitsi ga tsikja:ha (鉛筆が短い)
 jamjun (痛い)
 k²wa:han (小さい)
 k²wa:ka ?iju (小さい魚)
 φē:han (大きい)
 φē:ka ?iju (大魚)
 ?u: ?iju (大きい魚)
 tsikja:han (細い)
 k²wa:hanともいう。
 φē:han (太い)
 ?usi^wa (薄い)。?usihanともいう。
 ?atsiha (厚い)。?atsihanともいう。
 ?iba:han (狭い)
 siru:ha (広い)。siru:hanともいう。
 tsikjaha (近い)。tsikjahanともいう。
 tu:ha (遠い)。tu:hanともいう。
 tu:tabi (遠旅)。nagatabiともいう。
 tu:han kjo:de (遠い親戚)
 ?asaha (浅い)。?asahanともいう。
 ta:han (高い)
 ta:han jama (高い山)
 ta:ka ki: (高い木)
 ta:ka ja: (高い家)
- ta:ka tindzo: (高い天井)
 ta: dzo:gutfi (高い入口)
 sikuka (低い)
 sikuka ?irigutfi (低い入口)
 φukaha (深い)
 naggi si: (苦しい, 難儀する)
 kimu tʃagēha (かわいそうである)
 daro^wa (だるい)。darohanともいう。
 ?atsiha (暑い)。?atsihanともいう。
 ?itfa:nともいう。
 nukuha (暖い)。nukuhariともいう。
 nukutamarasi (あたためる)
 sigjoro:ha (寒い)。sigjorohan,
 sigjorohariともいう。
 tsikkjagiri (水が冷たい)
 sigjorohan (冷たい)
 sigjoro midzi (冷水)
 jogoha (痒い)。jogohanともいう。
 hatsikoha (芒が背中などに入ったときのかゆい様子)
 ki: ga tsikati hatsikoha (のげが付いかゆい)
 ?itfaha (痛い)
 ?ukkan ?itfaha (頭がいたい)
 wata ?itfaha (腹がいたい)
 garuha (軽い)
 ?ubuha (重い)
 ni: nu ?ubuha (荷が重い)
 juwaha (弱い)
 du: nu juwa ha (体が弱い)
 karadaga juwati (体が弱る)

- tsi: ha (強い)
 tfu: ka ttfu (強い人)。tsi: ka ttfu
 ともいう。
- m²a: ha (おいしい)
 mun ga m²a: ha (食物がおいしい)
 nidziha (まずい)
 kamjummun ga nidzi ha (食物がまずい)
 ?amaha (甘い)
 karahari (辛い)
 kufu nu karahari (こしょうが辛い)
 mafu nu karahari (塩が辛い)
 sigahan (味が薄い)。味噌の味が少ないこ
 と。
 sigan siru (味が薄い汁)
 siga tfa (薄い茶)
 si:ha (すっぱい)
 nigjaha (苦い)
 kusaha (くさい)
 furuha (古い)
 mi:ha (新しい)
 kimutʃagëha (悲しい)
 pë:hari (早い), dë:haともいう。「速い」
 にも用いる。
 dunnahari (晚い)。「遅い」にも用いる。
 kusaha (臭い)。きたないにおい。
 kabaha (香しい)。よいにおい。
 ho:raha (うれしい)。ha:rahanともいう。
 midziraha (楽しい)
 kju:nu ?undo:kwai ja midziraha (今
 日の運動会は楽しい)
 ?a:han (赤い)
 k²i:roha (黄色い)
 ?ao^wa (青い)。「緑」も同じ。「芽」は
 wakamï。
 siru^wa (白い)
- kuruha (黒い)。kuru^waともいう。
 sida:ha (涼しい)
 mi:si kjarowa (まぶしい)
 kjora ha (美しい)。kjorasa (美しさ)
 kjora mun (美人)
 ?jassagë (みにくい)
 ?jassagë më:re (不美人)
 kuraha (暗い)
 ?a:gari (明るい)
 ?otoroha (恐ろしい)
 nasakiroha (やさしい)。性質がやさしい
 こと。
 jasihan (易しい)
 jasihan (安い)
 nukuhan (ぬくい)
 nuruhan (ぬるい)
 nuru ju: (ぬるい湯)
 midziraha (面白い)
 naggi si: (きつい、難儀する)
 kju: ja naggi sita (今日は難儀した)
 kanaha (かわいい)
 kanaha m²aga (かわいい孫)
 ?wendaha (おとなしい)
 ?wendakwa (おとなしい子)
 wa:ha (若い)
 wassa (悪い)
 kuwaha (堅い)
 ja:raha (柔かい)
 jazra mifi (柔かい飯)
 kuiha (濃い)
 kui mun (濃いもの)
 sigahan (薄い)
 sigatʃa (薄茶)
 siga ?iro (薄色)
 juta:ha (良い)

ʔifugaha (忙しい)

sīgutu nu ʔifugahan (仕事が忙しい)

hatsīkaha (恥しい)

sī:goroha (むつかしい)

tudinahan (淋しい)

k²wa nu wuradan tudinaha (子がいな
なくて淋しい)

mīdzīraha (珍しい)

jugamaraha (うるさい)

φē:ha (早い, 速い)

kissaneha (きたない)

kissanehan k²in (きたない着物)

çirattai mun (平たいもの)

mato: (平坦なところ)

ʔuramikē (うらやましい)。ʔuramiha と
もいう。

maruha (丸い)

kībuha (煙い)。kībuhāともいう。

kīmutsi juta:ha (気持がよい)